平成28・29年度

大分県租税教育推進協議会委嘱

研究報告書

研究主題

「自分や社会の未来を見つめ，主体的に学ぶ生徒の育成」

総合的な学習の時間「ふるさと直入プロジェクト」

平成29年10月12日(木)

竹田市立直入中学校

《目 次》

Ⅰ. 研究の概要 … 1～5

Ⅱ. 租税教育の全体計画 … 6

Ⅲ. 年間指導計画(単元配列表) … 7～9

Ⅳ. 研究内容 … 10

Ⅴ. 研究の実際 … 11～30

Ⅰ. 生徒が主体的に学ぶための「授業改善」 ～教 科～

Ⅱ. 獲得した知識・技能の「補充・深化・統合」 ～総 合～

Ⅲ. 自分と社会の関わりについて考える ～道 徳～

Ⅳ. より良い学校・地域づくりへの参画 ～特 活～

Ⅵ. 研究のまとめ … 31～32

【資 料】

1. 直入中 租税教育の全体イメージ

2. これまでの授業実践

※ 表紙写真で生徒が作成したウエビングマップ

Ⅰ.研究の概要

1. 研究主題

「自分や社会の未来を見つめ，主体的に学ぶ生徒の育成

2. 主題設定の理由

(1) 学校教育目標との関わり

○　本校の教育目標は，「豊かな心を持ち 主体的に学び 信頼を築き上げようとする 自立した生徒の育成」である。この目標を達成するため，　①学力・体力の向上　②自主的・自治的活動の活性化　を重点目標として設定し，日々の教育活動に取り組んでいる。

○　本校の教育目標を達成するためには，日々の授業や諸活動が生徒の心に響き，また自らの成長を実感できる質の高い学びでなければならない。そのために，平成 28 年度に大分県租税教育推進協議会から委嘱を受けた租税教育を，「直入中の教育研究・教育活動の視点」として捉えることとした。そして，　① 生徒の実態をふまえて研究主題と仮説を設定し，　② つけたい力(資質・能力)を 3 つに絞り込み，　③ その力(資質・能力)を育むために教科や総合，特別活動等について横断的な教育課程を作成し，④ 授業改善など教師側の日常的な取組を織り込みながら，組織的に取り組んできた

(2) 租税教育の目標から

○　大分県租税教育推進協議会は，租税教育において

租税に関連した事項を通して郷土についての関心を高め，公民としての資質を身につけ，国家及び社会における権利と義務の主体者として自主的に判断し行動するための諸能力を育てる

ことにねらを置いている。研究委嘱校の指定を受け，このねらいをどう捉え何を実践していくかについて，本校生徒の実態をふまえて学習・研究した。その結果，例えば総合的な学習の時間で土曜授業を活用して平成 27 年度から始まった「ふるさと直入プロジェクト(郷土学)」の取組や，「芹川清掃」などのボランティア活動，租税教室や税の作文，アクティブ・ラーニングを指向した授業改善，道徳の研究など，本校で取り組んでいる多くの事が，租税教育のねらいと重なっていることが分かった。

○　しかし後述する生徒の実態を鑑みたとき，ある面で個別的だったこれらの取組について，「租税教育のねらいを視点として，『教育研究や教育活動を再定義・再構築』する」ことが必要であることが分かった。そして租税教育に取り組むことを通して教育目標の達成を実現することが，本校における租税教育の意義であることを教職員で共有した。このように本校にとっての租税教育とは，「租税教育のねらいの視点から本校の教育活動見つめ直し」，「教育目標および租税教育ねらいを達成する」ことをめざした教育研究・教育活動である。この理解にたって，2 年間の取組をすすめてきた。

(3) 本校生徒の実態から

○　本校は竹田市の北部に位置する生徒数 48 名の極小規模校である。生徒は 3 世代同居の家庭も多く，言動などとても優しい。また校区の小学校は一つで 9 年間同じクラスであり，生徒どうしの仲がとても良い。生活や学習態度などもまじめであり，指示された事にはしっかり取り組む。部活動もさかんで，全員が部活動に所属している。また各部の約 3 分の 1 の生徒が秋の市駅伝に向けて陸上部で活動している。生徒指導上の問題行動等もほとんどなく，毎日落ち着いた環境の中で学校生活をおくることができている。

○　本校生徒の良い面はとても多く，落ち着いた環境で学習やスポーツに取り組めているため，例えば竹田市や大分県，全国の調査等でも毎年平均を上回る高いスコアを記録する。そのような素晴らしい生徒の実態をふまえた上でなお生徒が生きていく未来を思えば，良い面に比べたとえ小さくあろうとも，教職員集団として本校生徒の課題をしっかり見つめ，向き合う必要がある。

以下に生徒の課題を示す。

【授業で見える学習上の課題】	【学校生活の中から見える課題】	【諸調査から見える課題】
・自分の意見や考えを持っているが発表して全体に出すことは苦手	・意見や考えを，自分個人として全体に発表することが苦手(グループとしての意見なら言える)	・意味を読み取ること(読解力)
・授業態度が受け身(少し難しい問題になると教師が答えを言う(出す)ことを待つ傾向)	・話し合いで意見を交わすことにやや消極的	・主題や題意，条件をふまえて書くこと
・考えた根拠や理由を示しながら，自分の意見を述べることが苦手	・友だちの意見に反対したり反論することはあまり好まない(意見対立は好まず，多数に賛同する)	

(H28 直入中校内研より)

○　これら課題を克服し，生徒がさらに主体的に学ぶ学校にするためには，例えば教師がアクティブラーニングの視点からの授業改善に取り組むなど，同じベクトル，この2年間で言えば租税教育の視点からの総合的な教育研究活動に取り組む必要があった。

(4) 社会の変化から

○　本年3月に新学習指導要領が示された。そこに至るまでの中教審答申では，今の子どもたちが生きる 2030 年ごろの社会が見すえられている。知識基盤社会やグローバル化の一層の進展はもちろん，IT 技術の驚くべき「進化」による全く違った社会，それも現時点では予測すらできない社会の到来が見通されている。今存在する職業がかなり多く人工知能にとって代わられ，また今はまだ存在すらしていない全く新しい職業の登場。答申では，間違いなく訪れる激しい社会の変化を子どもたちが前向きに受け止め，対応し，生きていくことを求める一方，「自己の人生や社会を人間ならではの感性を働かせて豊かなものにしていくこと」が期待されている。これらの指摘は，本校租税教育の主題と深く重なる。

> **子供たち一人一人が，予測できない変化に受け身で対処するのではなく，主体的に向き合って関わり合い，その過程を通して，自らの可能性を発揮し，よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要である。**　(H28.12 中央教育審議会 答申)

○ いかに社会が変わろうと，子どもたちの幸せが強く願われるとともに，一人一人が未来の創り手となることが期待されている。本校租税教育の中心となる取組は，①授業改善　②郷土学　③特別活動　④道徳 の4つである。これらの取組を通じて3つの力(資質・能力)を育み，子どもたちに未来を生きる力を培うことこそ，私たち直入中教職員集団の使命であると考えている。目の前の子どもたちが大きく変わる未来を生きていくことを思えば，私たち教職員に託されているものは大きい。

(5) 社会参画の視点から

○　質の高い学びは教師が指導技術を磨くだけでは実現できない。基本的な生活習慣の確立の上に，生徒が「直入中での学びは自分の将来や幸福とつながっている」という実感を持つことが大切である。そのとき，生徒は自ら高まろうとする意欲を持ち，自ら学びへと向かうであろう。この点から，「自分と社会」，「現在と未来」とのつながりとあり方を考える意識させることができる租税教育は，本校の教育目標を達成するために必要である。

3. つけたい力(資質・能力)

○　租税教育をすすめていく上で，生徒につけたい力(資質・能力)を明らかにする必要がある。そこで各教員がキーワード(価値や学習活動等)となる語句を生徒の実態をふまえながら挙げていき，最終的に校内研の協議で「3つの力(資質・能力)」として明らかにした。

・税の知識　・納税の義務　・税の使われ方
・暮らしと税

・社会貢献　・社会参画　・勤労の尊さ
・協働する力・現在と未来　**・社会と自分**

・郷土愛　・順法精神　・公正・公平
・健康・安全　・体力の向上
・豊かな感性・豊かな道徳性・創意工夫
・課題発見　・課題解決　**・幸せになる力**

【本校における租税教育を通してつけたい3つの力(資質・能力)】

① 税・納税に関する正しい「知識・理解」

② 社会に積極的に参画し，よりよい未来を築こうとする「意欲・態度(学びに思向かう力・人間性 等)」

③ 故郷に誇りを持ち，それを土台に未知の状況に対応できる「実践力(思考力・判断力・表現力 等)」

4. 租税教育を通してつけたい力(資質・能力)　※[2. 主題設定の理由]から再掲

① 税・納税に関する正しい「知識・理解」
② 社会に積極的に参画し，よりよい未来を築こうとする「意欲・態度(学びに向かう力・人間性 等)」
③ 故郷に誇りを持ち，それを土台に未知の状況に対応できる「実践力(思考力・判断力・表現力 等)」

5. 研究仮説

「租税教育の視点から，生徒に「自分と社会」，「現在と未来」を見つめさせる教育活動を授業や諸教育活動において組織・実践していけば，

① 生徒は自分と社会をつなぐ正しい知識(税・納税)を持ち，
② 社会に参画しようとし，
③ 故郷への誇りを土台に未知の状況に対応できる実践力を身につけ，

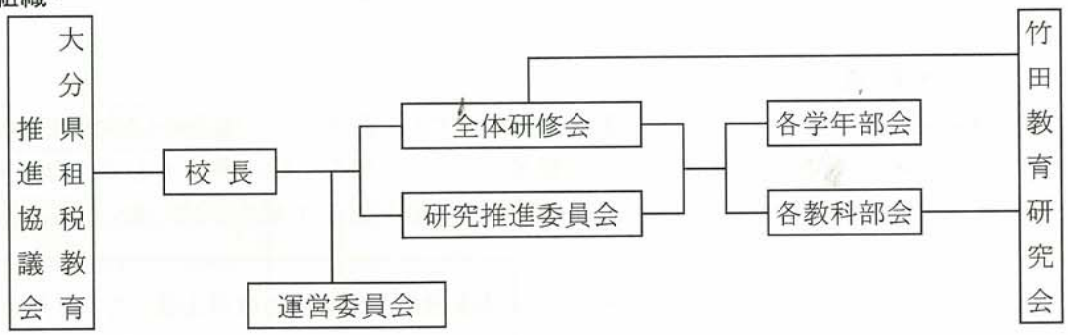
つけたい力(資質・能力)

本校の教育目標が達成されるであろう。」

6. 研究成果検証の手立て（生徒アンケート）

①	「授業は分かる。」	［目標値］ 生徒の割合80%以上
②	「直入中の授業は，将来の自分のためになる。」	［目標値］ 生徒の割合80%以上
③	「直入中をよりよくするために，自分は力を出している。」	［目標値］ 生徒の割合80%以上

7. 研究組織・



8. 研究経過

年度	月	日	曜	会の名称等	おもな内容等
	四月			・研究推進委員会（随時）	・本年度の研究について
		6	水	・運営委員会	・本年度の研究について
平成28年度	五月	11	水	**・第1回校内研**	・本年度の研究について　・諸研修
		12	木	・第１回 Q-U 検査実施	
		13	金	・第１回直入中校区教振	
		16	月	・竹教研（全体会）	
		25	水	**・第2回校内研**	・特別支援教育にかかわる共通理解
	六月	1	水	**・第3回校内研**	・本年度の「郷土学」について
		17	金	・竹教研（教科別部会）	
		22	水	**・第4回校内研**	・「Q-U 検査の見方」※大雨による下校指導で中止
		28	火	・竹教研（領域別部会）	
平成28年度	七月	4	月	・全校芹川清掃	・直入中税の学習Ⅰ－（ⅰ）
		6	水	・全校租税教室	・直入中税の学習Ⅰ－（ⅱ）
				・第5回校内研	・1 年数学科提案授業（實珠山）※後藤指導教諭招聘
		13	火	**・第6回校内研**	・3 年社会科提案授業（三浦）
		14	木	・1 年Ｔ授業（竹田中へ）	・1 年国語科　・1 年社会科
	八月	3	水	**・第7回校内研**	・「県学力実態調査」分析・検討会
		4	水	・竹教研（教科別部会）	
		18	木	**・第8回校内研**	・同和教育研修　※市教委・竹人権担当者招聘
					・「全国学力調査」分析・検討会　・2 学期の取組確認
		26	木	・竹教研（領域別部会）	
	九月	14	水	**・第9回校内研**	・3 年社会科提案授業（三浦）　※渡邉指導主事招聘
		30	水	・3 年Ｔ授業（久住中へ）	・3 年英語科　・3 年数学科
	十月			・互見授業月間	・10 月 3 日～ 26 日
		3	月	・竹教研（教科別部会）	
		12	水	・「郷土学」地域発表会	
		14	水	・竹教研（領域別部会）	
		18	火	・竹人権研究発表会（緑ヶ丘中）	・参加：1,2,3 年学級担任+人権担当者+校長（計 5 名）
		20	木	・数学科提案授業	・後藤指導主事来校
		26	水	**・第10回校内研**	・理論研究　・諸研修環流報告

		29	金	・第11回校内研	・3年道徳科提案授業(堀)　※森竹指導主事招聘 ※渡邊指導主事招聘
	十一月	2	水	・第12回校内研	・ICT研修
		9	水	・第13回校内研	・1年理科提案授業(梶原)
		24	木	・第2回Q-U検査実施	
		30	水	・第14回校内研 (第2回校区教振)	・人権教育提案授業 ・メディアについての講演会
	一二月	7	水	・第15回校内研	・1年音楽科提案授業(河野)
		21	水	・第16回校内研	・第2回「Q-U分析・検討会」
		27	火	・大分県教育課程研究会	・社会科教育部会(三浦) ・特別支援教育部会(河野)
	一月	11	水	・第17回校内研	・3学期の取組確認
		18	水	・第18回校内研	・2年国語科提案授業(神志那)
		19	水	・2年T授業(都野中と)	・数学科 ・体育科
	二月	4	土	・直入中税の学習Ⅱ	・授業者(・3年校長 ・2年三浦 ・1年教頭)
		8	水	・第19回校内研	・1年体育科提案授業(西森)
		14	火	・竹教研(全体会)	
		22	水	・第20回校内研	・研究のまとめと来年度の方向
	三月	10	金	・「H28研究紀要」製本・印刷	
平成29年度	四月			・研究推進委員会(随時)	・本年度の研究について
		5	水	・運営委員会	・本年度の研究について
		27	木	・第1回Q-U検査実施	
	五月	10	水	・第1回直入中校区教振	
		11	木	・第1回校内研	・本年度の研究について ・諸研修
		16	火	・竹教研(全体会)	
平成29年度		24	水	・第2回校内研	・主題についての共通理解
	六月	1	木	・第3回校内研	・第1回Q-U検査分析検討会 ・直入中「授業改善計画」
		16	金	・竹教研(教科別部会)	
		21	水	・第4回校内研	・租税教育の中間総括 ・諸研修
		26	月	・竹教研(領域別部会)	
		28	水	・第5回校内研	・3年理科授業提案(知識構成型ジグソー学習)
	七月	11	火	・「全校租税教室」3限	・直入中税の学習Ⅰ
				・1年T授業(@久住中:社国)	
		12	水	・第6回校内研	・租税教育原稿諸検討Ⅰ
		13	木	・第7回校内研	・2年地理授業提案(知識構成型ジグソー学習) ・市教委渡邊，県教委阿南・森竹指導主事 招聘
	八月	3	木	・竹教研(教科別部会)	
		8	火	・第8回校内研	・指導案審議Ⅰ(1年音楽 2年道徳 3年理科 紀要) ・市教委渡邊，県教委阿南・森竹指導主事 招聘
		22	火	・第9回校内研 ・竹教研(領域別部会)	・指導案審議Ⅱ(1年音楽 2年道徳 3年理科 紀要)
	九月	12	火	・「明るい選挙出前授業」3-4限	・直入中税の学習Ⅱ
		13	水	・第10回校内研	・指導案審議Ⅲ(1年音楽 2年道徳 3年理科 紀要)
	十月	2	月	・竹教研(教科別部会)	
		11	水	・竹教研(領域別部会)	
		12	木	・「租税教育研究発表会」	

Ⅱ.租税教育の全体計画

竹田市立 直入中学校

学校教育目標

～豊かな心を持ち，主体的に学び，信頼を築き上げようとする，自立した生徒の育成～

目指す生徒像

・礼儀正しく心豊かな生徒
・平和を愛し，人格を尊重し，互いに磨き合える生徒
・課題を持ち，考え，主体的に学ぶ生徒
・直入に誇りを持ち，社会に貢献できる生徒

目指す学校像

・生徒が主体的に活動する学校
・いじめがない学校
・美しい学校
・地域に開放され愛される学校

租税教育の目指すもの

○平和的な国家及び社会の形成者としての資質を養い，児童・生徒を取り巻く身近な事象を捉えてこれを民主的な観点に立って深く考え，更に望ましい実践的な態度や習慣を身につけさせていく。

生徒の実態

・素直で明るく純粋
・活動にまじめに取り組む
・粘り強く頑張れる
・指示されたこと決められたことはできるが自主性が不十分
・自己表現力が十分には育っていない
・間違うことを恐れる傾向

直入中の租税教育の目標

自己や社会の将来を考え,主体的に学ぶ生徒の育成

各学年の租税教育の目標

第１学年	○ 租税について，興味関心を持ち，租税や租税に関係する様々な知識や情報を収集し，それを自分たちの生活に生かしていこうとする態度を身につけさせる。
第２学年	○ 租税について，興味関心を高め，収集した租税や租税に関係する様々な知識や情報を自分たちの生活に生かせるように工夫する態度を身につけさせる。
第３学年	○ 租税について，興味関心を広げ，租税や租税に関する様々な知識や情報から社会に貢献できる態度やものを創造する意欲を身につけさせる。

租税教育の目標を達成するための手立て

Ⅰ．生徒が主体的に学ぶための「**授業改善**」　～ アクティブ・ラーニングを指向して ～
　○「「生徒授業評価」と「互見授業」を活用した授業改善　○「全校租税教室」と「直入中税の学習」

Ⅱ．獲得した知識・技能の「**補充・深化・統合**」　～ 総合的な学習の時間 ～
　○「郷土学」(総合的な学習の時間)　○「直入中 綴る」取組

Ⅲ．「**自分と社会の関わりについて考える**」　～ 道 徳 ～
　○「価値を論じ合う道徳」の研究　○社会と自分とのかかわりについて考える

Ⅳ．「**より良い学校・地域づくりへの参画**」　～ 特別活動 ～
　○「芹川清掃」(ボランティア活動)　○社会の中の自分という視点からの教育活動

各教科	道 徳	特別活動	総合的な学習の時間
「生徒授業評価」と「互見授業」を取り入れた授業改善に取り組むとともに，関連づけられる単元で租税に対する興味・関心を高める。	特に「公正・公平」「郷土愛」を重点項目として設定し，各教科や行事等との関連を明らかにしながら道徳性を養う。	租税教室を通して，集団の一員としての自覚を深め，よりよい集団生活を築いていこうとする自主的・実践的な態度を養う。	「郷土学」の取り組みの中に租税に関する視点をもうけ，探求的に追求できるよう指導する。

Ⅲ. 年間指導計画(単元配列表)

1年「租税教育カレンダー」

教科・領域/月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語科			Ⅱ 情報の集め方を知ろう				Ⅲ 『幻の魚は生きていた』	Ⅲ 根拠を明確にして魅力を伝えよう			
社会科			Ⅲ 古代のあゆみと東アジア	Ⅰ.○税 全校租税教室	Ⅰ.○税 選挙出前授業						
数学科						Ⅲ 比例・反比例				Ⅲ 資料の活用	
保健/体育科											
道 徳			Ⅲ 『私のふるさと』			Ⅱ 『いじめ撲滅宣言』	Ⅲ 『自主教材』			Ⅱ 『自分と学校との関わり』	
総合的な学習の時間		Ⅲ.○ふるさと ○未来 郷土学「ふるさと直入プロジェクト」					Ⅱ.○社会参画 文化祭で発信			Ⅱ.○社会参画 東日本大震災の学習 ～災害と防災～	
特別活動(行事等)			Ⅱ 生徒会役員選挙 前期生徒総会	Ⅱ 全校 芹川清掃	Ⅲ 体育大会	Ⅲ 久住山 清掃登山	Ⅱ 生徒会役員選挙 後期生徒総会				
理 科	Ⅲ 身近な生物・植物の観察										
音楽科						Ⅲ 日本の民謡		Ⅲ 『赤とんぼ』			
技術/家庭科							Ⅲ 住まいと地域			Ⅱ 環境に配慮した衣生活	
英語科										Ⅲ 『大切なものを紹介しよう』	

※『　』内は作品名または題材名，資料名等。その他はすべて単元名。

【租税教育を通してつけたい「三つの力」】

Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
税・納税に関する正しい「知識・理解」	社会に積極的に参画し，より良い未来を築いていこうする「意欲・態度(学びに向かう力・人間性 等)」	故郷(ふるさと)をに誇りを持ち，それを土台に未知の状況に対応できる「実践力(思考力・判断力・表現力 等)」

【直入中 租税教育の目標】
自分や社会の未来を見つめ，主体的に学ぶ生徒の育成

2年「租税教育カレンダー」

教科・領域/月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語科			Ⅱ メディアと上手に付合う								
社会科			Ⅲ 九州地方	Ⅰ.○税 全校租税教室	Ⅰ.○税 選挙出前授業					Ⅲ 身近な地域の調査	Ⅱ 新たな時代の日本と世界
数学科			Ⅲ 『一次関数』							Ⅲ 『確率』	
保健/体育科								Ⅱ 環境の汚染と保全			
道 徳			Ⅲ 『ふるさとを愛するということ』			Ⅱ 『二通の手紙』	Ⅲ 『自主教材』			Ⅱ 『自分と学校との関わり』	
総合的な学習の時間	Ⅱ.○社会参画 「職場体験学習」の一部		Ⅲ.○ふるさと ○未来 郷土学「ふるさと直入プロジェクト」				Ⅱ.○社会参画 文化祭で発信				
特別活動(行事等)			Ⅱ 生徒会役員選挙 前期生徒総会	Ⅱ 全校 芹川清掃	Ⅲ 体育大会	Ⅲ 修学旅行 自主研修		Ⅱ 生徒会役員選挙 後期生徒総会			
理 科									Ⅲ 『気象のしくみと天気の変化』		
音楽科								Ⅲ 『荒城の月』	Ⅲ 日本の郷土芸能		
技術/家庭科					Ⅲ 地域の食材と食文化	Ⅱ 食生活と環境との関わり		Ⅱ わたしたちの生活とエネルギーの変換			
英語科										Ⅲ 『自分の町を紹介しよう』	

※『　』内は作品名または題材名，資料名等。その他はすべて単元名。

【租税教育を通してつけたい「三つの力」】

Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
税・納税に関する正しい「知識・理解」	社会に積極的に参画し，より良い未来を築いていこうする「意欲・態度(学びに向かう力・人間性 等)」	故郷(ふるさと)をに誇りを持ち，それを土台に未知の状況に対応できる「実践力(思考力・判断力・表現力 等)」

【直入中 租税教育の目標】
自分や社会の未来を見つめ，主体的に学ぶ生徒の育成

3年「租税教育カレンダー」

教科・領域/月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語科						Ⅲ『故郷』	Ⅲ新聞の社説を比較して読もう		Ⅱ『誰かの代わりに』		
社会科				Ⅰ.○税 全校租税教室	Ⅰ.○税 選挙出前授業	Ⅰ現代の民主政治	Ⅲ地方自治と私たち	Ⅰ政府の役割と国民の福祉		Ⅱこれからの地域社会と日本	
数学科						Ⅲ2次関数 いろいろな関数			Ⅲ標本調査		
保健/体育科									Ⅱ健康な生活と病気の予防		
道 徳			Ⅲ『メッセージ～ふるさと～』			Ⅱ『結婚の壁』	Ⅲ『重光葵～東西のかけはし～』			Ⅱ『男女共同参画社会』	
総合的な学習の時間			Ⅲ.○ふるさと ○未来 郷土学「ふるさと直入プロジェクト」				Ⅱ.○社会参画 文化祭で発信	Ⅱ.○社会参画 持続可能な社会の実現(ESD)			
特別活動(行事等)			Ⅱ生徒会役員選挙 前期生徒総会	Ⅱ全校 芹川清掃	Ⅲ体育大会	Ⅲ久住山 清掃登山	Ⅱ生徒会役員選挙 後期生徒総会				
理 科						Ⅱ化学変化と イオン				Ⅱ地球の明るい未来のために	
音楽科								Ⅲ歌い継ごう 日本の歌			
技術/家庭科						Ⅱ世代を超えた人々と交流して					
英語科						Ⅱ『キング牧師のえがいた夢』					

※『　』内は作品名または題材名，資料名等。その他はすべて単元名。

【租税教育を通してつけたい「三つの力」】

Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
税・納税に関する正しい「知識・理解」	社会に積極的に参画し，より良い未来を築いていこうする「意欲・態度(学びに向かう力・人間性 等)」	故郷(ふるさと)をに誇りを持ち，それを土台に未知の状況に対応できる「実践力(思考力・判断力・表現力 等)」

【直入中 租税教育の目標】
自分や社会の未来を見つめ，主体的に学ぶ生徒の育成

Ⅳ.研究内容

Ⅰ. 生徒が主体的に学ぶための「授業改善」～ アクティブ･ラーニングを指向して ～

1.「主体性」についての共通理解
2. 全員提案授業
   (1)「直入中授業プランフォーマット」の活用。
   (2) 知識構成型ジグソー法の授業提案
   (3) ワークショップ型授業研究
3.「生徒授業評価」と「互見授業」を活用した授業改善
4.「全校租税教室」と「直入中 税の学習」
5. 目指す授業像を生徒と共有

Ⅱ. 獲得した知識･技能の「補充･深化･統合」～ 総合的な学習の時間 ～

1.「郷土学」(総合的な学習の時間[全校総合「ふるさと直入プロジェクト」])
2.「直入中 綴る」取組

Ⅲ.「自分と社会の関わりについて考える」～ 道 徳 ～

1.「価値を論じ合う道徳」の研究
2. 社会の中の自分という視点からの教育活動

Ⅳ.「より良い学校･地域づくりへの参画」～ 特別活動 ～

1. 諸行事の生徒中心の企画･運営
2.「芹川清掃」
3. Q-U検査を活用しPDCA化した集団づくり
   →･集団と個への共通理解および教職員集団による「かかわり」

V. 研究の実際

Ⅰ. 生徒が主体的に学ぶための「授業改善」 ～ アクティブ・ラーニングを指向して ～

1. 主体性について

○ 先ず「主体性」と「自主性」は違うと考えた。私たちが授業はもちろんすべての教育活動で目指す生徒は，「主体性」のある生徒である。そのことを教職員で確認した。

・例えば，図書当番の仕事がどうあったらもっと円滑に，またみんなのためになるか課題を見つけ，解決策を話し合い，実行するのが「主体性」である。
・一方，図書当番の仕事を，誰からも言われずに率先してこなすのは「自主性」である。

「主体性」…主体性とは，何をやるかは決まっていない状況で，自分で考えて，判断し，行動すること。

「自主性」…自主性とは単純に「やるべきこと」は明確で，その行動を率先して人に言われないで自らやること。

「主体性」の対義語…ものごとの判断を相手に任せることしかしないさま
「言いなり」 「合わせるだけ」 「相手に決定を委ねる」 など
（三省堂「国語辞典」などより）

・語源を調べることでも，やはり直入中の生徒の課題と重なるものが見えてくる。

○ 校内研での「主体性とは何か」という議論を通しても，生徒の主体性を育むためには，課題である思考力・判断力・表現力を高める必要があることが分かった。そして先ずは本校では未だ多い講義型の，教え込む授業の改善に取り組む必要があることが再確認できた。また授業改善の方向性を，思考力・判断力・表現力を高かめていくため，言語活動を重視した「教師が教え込む授業の連続からの脱却」として共有した。

○ では授業における「主体性」とは具体的な生徒の姿としてどうあればよいのか。そのことを議論し，共通理解したものが以下である。

「授業で目指す主体性」＝「目指す授業」
① 課題やめあてを立てて解決・達成するために，
② 自分なりの方法や考え，意見を持ってそれを表明し，
③ 友だちと交流・活動する姿。

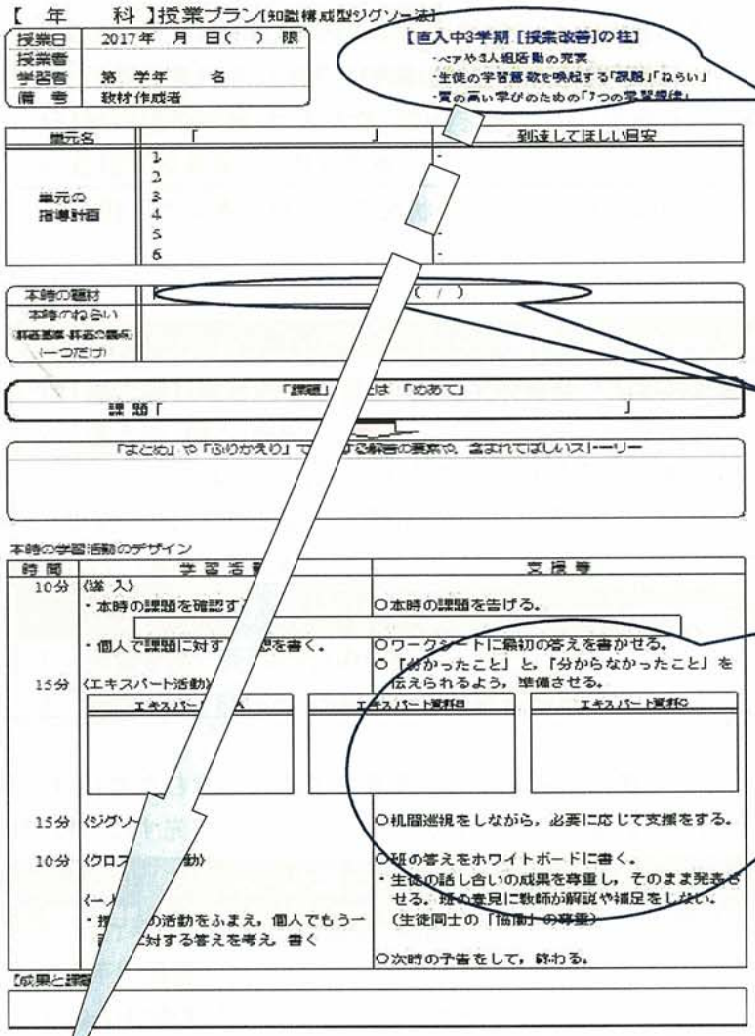
○ 授業でこのような姿が見られれば，それが目指す授業であると考える。私たち直入中の教師集団は，この目指す授業のイメージを，竹田市全体で取り組んできたジグソー学習をイメージすることで理解できる。こうした議論を経て，全体のそして各教科の授業改善の方向性を，具合的な「生徒の姿」として共有することができた。

2. 全員提案授業

(1)「直入中 授業プランフォーマット」

○　目指す授業を実現するために，授業改善のベクトルを具体的にそろえる必要がある。そこで指導案を書く際のフォーマットを，学校評価と連動させてブラッシュアップさせていった。H28 年度の 1 ～ 3 学期のフォーマットを示す。なおフォーマットはジグソー法での実践を想定して作成しているが，道徳等でも授業者がアレンジしながら使用した。

【直入中授業プランフォーマット(H28：3学期)】



○この部分に，全員で取り組む「授業改善」の具体を示し，これをふまえた授業提案をするように取り組む。

○学期末の学校評価を受け，学期毎に見直しPDCAサイクル化。

○生徒の学習意欲を喚起する，良質な「課題・めあて」の設定にこだわるべく，項を大きくおこした。

○これまでのジグソー学習で明らかになっている指導等についてはあらかじめフォーマットに打ち込んである。ジグソーの指導型の習熟を図る。

○示すものは3学期完成形である。「本時のねらい」と「評価の観点」をそろえ，また一つとした。

○　この部分を，学期毎の学校評価と連動させ，下のようにブラッシュアップさせた。これによって，全員が同じ方向性で授業改善に取り組むことができた。

1学期［授業改善］の基本	一学期学校評価	2学期［授業改善］の基本	二学期学校評価	3学期［授業改善］の基本
○筋道立った問題解決的な授業の推進 ○自分の意見や考えを持てる展開がある授業の推進	→	○文章・絵・図・諸資料を読み取る活動 ○読み取ったことを表現する活動。ICT機器の活用。 ○ペアや3人組などで生徒が活動する場面 ○生徒の学習意欲を喚起する「課題」「ねらい」	→	○ペアや3人組活動の充実 ○生徒の学習意欲を喚起する「課題」「ねらい」 ○質の高い学びのための「7つの学習規律」

(2) 知識構成型ジグソー法の提案授業

○　中教審の審議まとめでは，学校教育に「主体的・対話的で深い学び」すなわちアクティブラーニング(以下 A.L.)の視点からの学びを求めている。すでに知られるように，A.L.は特定の学習形式や授業の型にとどまるものでなく，生徒が「どのように学ぶか」という学びの質を重視する。まさに授業改善の視点としてとらえるべきものであろう。その意味で，竹田市全体で取り組んでいるジグソー学習に私たちが継続して取り組みまた習熟することは，生徒に質の高い学びを保障することにつながる。

○　あらためてジグソー学習について，すでに明らかになっていること，また「新大分スタンダード」の視点から整理し，取組をすすめた。

ジグソー学習の場面	これまでの研究で明らかになっていること	新大分スタンダードの視点から
1. 課題の提示	○学習課題は，生徒にとって解きごたえのある，やや難しい課題がよい。平易な課題は，例え解けても満足感が薄くなる。	○めあてや課題に見通しを持つ　P課題設定
2. 1人で考える	○ 課題に対して最初に「自分の」予想や考えを持たせることで，主体的に学習にのぞめる。	○自己決定の場
3. エキスパート活動	○生徒一人ひとりが自分が得た知識や事実を，相手が納得するように説明することが必要であるため，生徒に責任感が生まれ，受け身にならず，全員が主体的に学習に参加することができる。	P情報収集
4. ジグソー活動	○互いに相手の説明を真剣に聞かなければ答えにたどり着けないため，相手の説明を真剣に聞く。その中で，自己肯定感が高まることが期待できる。	○自己存在感を与える　P整理・分析
5. クロストーク活動	○みんなで「力を合わせて答えにたどり着いた」という満足感が味わえ，分かる・楽しい授業になる。次の学習に向かう意欲を喚起できる。	○共感的人間関係を育む　P発信・交流
6. 1人で考える	○他者との対話や交流で得たことをもとに，自分の力で課題の対する答を出す。その生徒にとって，主体的な学習となる。	○まとめ振り返り　P振り返り
※指導のあり方や教材研究 等	○「協調学習」は，学習課題と資料が学習の質を大きく決める。 ○エキスパート活動で生徒が完全に内容を理解していなくとも，クロストーク活動で他者の得た理解と出会ったり，あるいは仲間から助けられたりすることで，答えに近づくことができる。 ○生徒相互の助け合いが見られたり，知恵をしぼろうとするのは，こういう生徒が「困った」時であるので，教師は過度の指導をひかえ，簡潔で適切な支援をすることを心がけたい。	

○　提案授業は，事後研での充実もはかるため，基本的にジグソー学習で実施することとした。その結果，全教職員でジグソーの提案授業と授業研究に取り組んだ。教科は違えど同じ授業型にそって振り返ることができるので，目指す授業像ついてイメージを共有することにつながった。

○この取り組みを H28 年度中に一年間続けたことで，H29 年度は 4 月から

【直入中1学期[授業改善]の基本】
・意見や考えを出し合う学習活動の工夫
・生徒の学習意欲を喚起する「課題」「ねらい」の工夫

を設定することができた。また新たに赴任した教職員とも直ちに共有し，昨年度よりペースを早めて授業改善の PDCA サイクルをスタートすることができた。また H29 年 4 月の段階で，共通の視点を持って互見授業に取り組むことができた。

(3) ワークショップ型授業研究

○　授業を見る側は，付箋紙に気がついたことを書き留めることにしている。付箋紙のルールは信号機のルールと合わせ，

青：よかったところ
黄：課題など
赤：改善の手立てなど

としている。この付箋紙信号機ルールは，生徒の学習でも同様としている。

○　提案授業は原則水曜日４限におこなった。この時限に行うことで，授業者は空き時間を利用して，授業研究までに生徒の最初の考えと最後の考えの変容を考察したり課題や資料など授業の振り返りしたりと，あらかじめ反省点等を整理して授業研究に臨むことができる。

○「提案授業はジグソー学習で」を原則とし，授業研究で毎回同じ視点で意見交換・対話することにより，指導法を磨き合える。授業観が豊かになっていく。その中で学期途中であろうと自分の教科で生徒に返していけるものが生まれるであろう。こうしたことをねらい，授業研究は，視点は変えずしかし活発な意見交換を促すため，毎回ワークショップ形式を工夫して行った。

【授業研究の流れ（7 月 13 日（水）の場合）】

(1)協議の視点の確認

○[協調学習をひきおこす上で]，[実際の生徒の姿から]，

①「課題」または「めあて」はどうだったか。
②「エキスパート資料」はどうだったか。
③ 授業規律，学習意欲，その他

(2)授業者自評

【授業者「自評」の構成】

① 授業のねらい(「つけたい力」)
② 「学習課題」と期待する解答の要素
③ エキスパート資料(活動)の構成
④ その他①～③にかかわる授業者の「考察」や「ひっかかり」，等

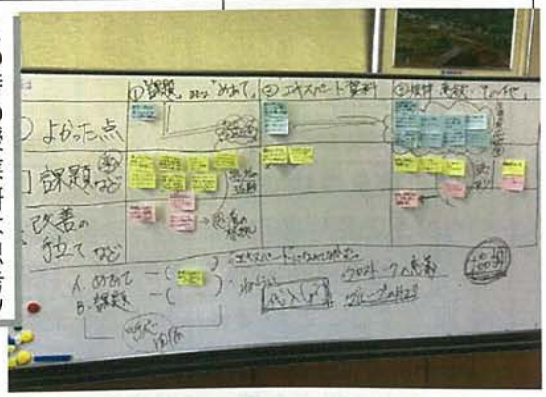
※ 生徒の(ワークシート等や，授業中の姿に基づきながら，構想と実際が，どうであったか。

(3)研究討議

付箋の色→**青**「よかった点」　**黄**「課題など」　**赤**「改善の手立てなど」

	① 「課題」または「めあて」	② 「エキスパート資料」	③ 授業規律，意欲，他
○よかった点			
□課題など			
☆改善の手立てなど			

この時の授業研は思考ツール(マトリックス型)を使った。ホワイトボードに付箋紙をはって，議論を可視化した。



3.「生徒授業評価」と「互見授業」

○　H28 年度，年度当初に以下のことを確認した。

① 毎学期おわりに「生徒授業評価」を実施する
② 学期に複数回「互見授業」を実施する。

以上 2 点を提案授業・授業研究と連動させながらすすめ，授業改善をはかり，教師一人ひとりの力量を高めることを意図して取り組んだ。

【資 料】「生徒授業評価」を活用した授業改善の取組(2016/06/22)　　竹田市立直入中学校

期	評価者 等	期 間	取 組 内 容
Ⅰ	生徒による「授業評価」	「互見授業月間」 ①7 月 ②8 月の校内研	・各教科の授業時間において，生徒にアンケートを実施する。 ・アンケートの集約と考察。 ・ 2 学期に向けての具体的な授業改善策の策定。
Ⅱ	教師による「授業評価」	①10 月 「互見授業月間」 ②11 月の校内研	・「10 月互見授業月間」を利用し，授業評価シートにもとづいて，教師による授業評価を行う。 ・校内研で意見を交流し合う。
Ⅲ	生徒による「授業評価」	①12 月 ②春季休業中	・各教科の授業時間において，生徒にアンケートを実施する。 ・アンケートの集約と考察。 ・3 学期に向けての具体的な授業改善策の策定。
Ⅳ	生徒による「授業評価」	①2 月 「互見授業月間」 ②3 月	・各教科の授業時間において，生徒にアンケートを実施する。 ・3 学期は道徳(人権)授業の互見に特化。 ・アンケートの集約と考察，次年度の教育課程へ反映。

※ 互見授業は誰が誰の何の授業を見に行くか，教務部で計画を作り策定し，実施。

【資 料】実際の「生徒授業評価アンケート」

直入中学校「授業アンケート」　教科名【社会科】

☆ このアンケートは，授業を良くしていくために，みなさんの声を聞くアンケートです。

No.	質 問	A◎ そう思う	B○ だいたいそう思う	C△ どちらかというと，そうは思わない	D× そうは思わない
①	・授業の内容は，分かった。				
②	・授業の「課題」や「めあて」に真剣に取り組めた。				
③	・自分の意見や考えを，他の人に説明することができた。				
④	・友達と意見や考えを交流する時間があった。				
⑤	・				

【自由記述欄→授業のことや要望などあれば，何でも書いて下さいね。】

※ ご協力

○「5 科国数英理社」と「4 科美音体技家」とでは質問項目を部分的に変えている。

(例)・5 科「授業の内容は，分かった。」
　　・4 科「技能は上達した。」

○　⑤の項目については，各授業者が自分の授業に関して生徒に聞きたいことをもうける欄とした。

直入中学校「授業アンケート」　教科名【音楽科】

☆ このアンケートは，授業を良くしていくために，みなさんの声を聞くアンケートです。

No.	質 問	A◎ そう思う	B○ だいたいそう思う	C△ どちらかというと，そうは思わない	D× そうは思わない
①	・授業の内容は，分かった。(技能は上達した)				
②	・授業の「課題」や「めあて」に真剣に取り組めた。				
③	・自分の意見や考えを，他の人に説明することができた。				
④	・みんなと活動することで，発見したり気がついたことがあった。				
⑤	・				

【自由記述欄→授業のことや要望などあれば，何でも書いて下さいね。】

※ ご協力，ありがとうございました!!

○　一昨年度(H27 年度)の反省として，

互見授業週間形式として，期間内に誰の授業でも参観しようという取組を実施したところ実際には他の業務等を優先して，なかなか行けない

があったという。そこで H28 年度は，必ず互見に行く授業を研究部で計画して実施した。ベテランと若手，五科と四科が組み合わされるよう計画したが，2 回目 2 学期はそうした枠を超えて，空き時間にベテランの授業を自主的に互見する若手教職員も現れた。ベテラン教職員も，若手教職員の授業改善の意欲に大いに刺激を受け，学ぶことができた。

○ H28 年度 3 学期は，学級担任の道徳(人権)の授業を互見するよう企画した。特に部落史学習については，学年をこえて教材の紹介や指導法の工夫等が職員室で話題になっており，指導法や授業技術だけでない，互見授業の良さを味わうことができた。

【資料:H28年度 2学期「互見授業」計画】

○2学期「互見授業」について【確定版】　2016/10/24

(1) 目 的
○ 教科の垣根を越えてお互いの授業を参観しあい，良い点や効果的な取組みなどを各自の授業に取り入れ，指導法の工夫・改善をはかる。(自分の授業改善に活かす)
○「授業評価シート」を活用することで，教師同士がアドバイスをしあうような，授業技術の学びあいの場のきっかけをつくる。
○ 自分の授業の時とは違った生徒の様子を見ることで，生徒理解を深める。

(2) 基本的な姿勢
○ 生徒・同僚教職員・管理職による授業評価は学校教育自己診断の一環であり，相互に各教科の診断を行い，授業改善に活かすことで，「楽しい学校」の実現につながる。
○ 下記計画案にかぎらず，「授業は公開である」という基本姿勢により，日常的・積極的に互見参観をすすめる。

互見授業基本計画(※ 基本計画の分は必ず互見します。　※ 自分が何の授業を見るかは，表を横に見ます)

	国語	理科	社会	数学	英語	保健体育	音楽
神志那		11/9(水)5限 2年理科提案	11/11(金)3限 3年社会		11/7(月)2限 2年英語	11/11(金)4限 2年保健体育	11/9(水)4限 2年音楽
梶原	11/10(木)3限 1年国語			11/10(木)4限 3年数学	11/7(月)2限 2年英語		
三浦	11/10(木)3限 1年国語	11/9(水)5限 2年理科提案		11/10(木)4限 3年数学		11/11(金)4限 2年保健体育	
賀球山		11/9(水)5限 2年理科提案	11/11(金)3限 3年社会		11/7(月)2限 2年英語		11/9(水)4限 2年音楽
堀	11/10(木)3限 1年国語	11/9(水)5限 2年理科提案		11/10(木)4限 3年数学			
西森		11/9(水)5限 2年理科提案	11/11(金)3限 3年社会				11/9(水)4限 2年音楽
河野	11/10(木)3限 1年国語	11/9(水)5限 2年理科提案		11/10(木)4限 3年数学		11/11(金)4限 2年保健体育	

※記入した「授業観察シート」は，コピーして1部は授業者へ，1部は教務部まで提出して下さい。

○ 昨年度の実績の上に，H29 年度は 4 月当初から次のような計画で授業改善に取り組んでいる。

H29年度「生徒授業評価」「互見授業」の機能を連携・活用した授業改善の取組

竹田市立直入中学校 2017/04/19(研究部)

学期	Ⅰ期				Ⅱ期					Ⅲ期		
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
「生徒による授業評価」			○6/2金～6/9金 ・授業改善計画に対する最初の検証	○7/3月～7/10月 ・授業改善計画に対する一学期末の検証			○10/16月～10/23月 ・教科毎の授業改善方針の検証と見直し		○12/12火～12/18月 ・授業改善計画および教科毎の授業改善方針に対する二学期末の検証			○3/12月～3/19月 ・授業改善計画・教科毎の授業改善方針のまとめと次年度への引き継ぎ策定
授業改善の進捗イメージ	「授業改善計画」の策定	「めざす授業像」の共有(・教師-生徒)		「授業改善方針」Ⅰの教科毎の策定			「租税教育研究発表会」を利用した内部・外部評価		「授業改善方針」Ⅱの教科毎の策定			まとめと次年度教育課程への反映
「互見授業」(教師による授業評価)	○4/28金～5/2月 ・生徒の学習上の課題の把握と共有					○9/12火～9/15金 ・生徒の学習上の課題の把握と共有 ・指導技術等の相互指導	○10/12木(研究発表会) ・生徒の学習上の課題の把握と共有 ・指導技術等の相互交流					
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学期	Ⅰ期				Ⅱ期					Ⅲ期		

【私たち直入中教師集団は，なぜ授業改善に取り組むのか】

○「成績を上げたい」,「もっと成績を上げたい」
○「分かりたい」,「もっと分かりたい」
○「知りたい」,「もっと知りたい」
○「話したい」,「もっと話したい」
○「聞いてほしい」,「もっと聞いてほしい」

子どもの願い

○「自分を好きになってほしい」,「もっと好きになってほしい」
○「受け入れてほしい」,「もっと受け入れてほしい」
○「夢を持ちたい」,「夢をかなえたい」
○「素敵な人になりたい」 ○「自分にあった人生を進みたい」
○「幸せになりたい」

不確かだが，確実に大きく変化する未来

【直入中「授業改善」スケジュール表】

学期	生徒授業評価	check	互見授業	check
Ⅰ			○4/28金～5/2月	☑
	○6/2金～6/9金	☑		
	○7/3月～7/10月	☑		
Ⅱ			○9/12火～9/15金	☑
	○10/16月～10/23月	□	○10/12租税教育研究発表会	
	○12/12火～12/18月	□		
Ⅲ	○3/12月～3/19月	□		

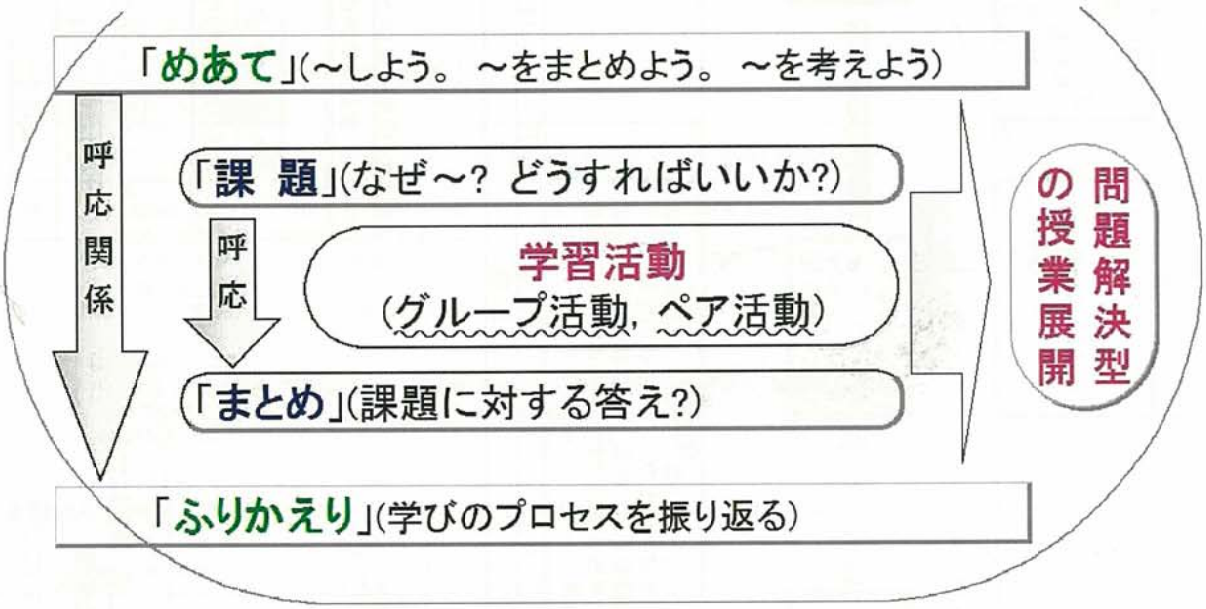
4. 知識構成型ジグソー法の指導法を授業へ活用

(1) **課 題 と まとめ** , **めあて と 振り返り**

○ ジグソー学習においては，課題と資料が学習の質を大きく左右することが分かっている。授業研究でも，良質な課題はどうあればよいかこだわってきた。研究の中で新大分スタンダードの視点から，良質な「課題」は「まとめ」と一体的に考えることが必要であることが分かった。

○ **課題 と まとめ**, **めあて と 振り返り** の呼応関係については，「新大分スタンダード」および各種主任研修会等において再度の確認を求められるところである。直入中校内研では，H28 年度 6 月第 4 回校内研で整理・再確認した。

【「課題」と「まとめ」，[めあて]と[振り返り]の呼応関係(例)」】



【「課題」をつくる際の例】※ H28 直入中校内研資料より			
課題	① なぜ(どうして)～だろうか。	・疑問型	※「何が」と聞いた場合，答は体言(名詞・名詞節)になる。
	② どのように(どのような)～だろうか。	・疑問型	
	③ ～できるだろうか。	・疑問型	
	④ どうすればよいだろか。	・疑問型 ・提言型	※「なぜ」と問う場合は，答は文章であらわせる形になる。
	⑤ どうあるべきだろうか	・提言型	
	⑥ AとBどちらがよいだろうか。	・価値判断型	
	⑦ すれば～できるか	・検証型	
【「めあて」をつくる際の例】			
めあて	① ～について調べよう。(まとめよう)	⇒ ○本時のめあてに対して、到達できたか，どのようなことが難しかったのか，振り返り，自分なりに次の時間のめあてを立てさせる。	
	② ～をつくろう(作成しよう)		
	③ ～を工夫しよう		
	④ ～に親しもう		

※「めあて」であっても，条件をつければ課題になる。「～しよう。ただし，○○を使って。」

○ 課題にこだわるのは，知識構成型ジグソー法に取り組んできたからである。「児童生徒の主体的な学びを促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の設定例」(大分県教育庁義務教育課版)を見ると，これまでジグソー法の授業実践等で案出された課題やまとめ等と重なるものも多く，大いに参考にしつつ，あらためて校内研でジグソー学習を中心にすえる方向性が正しいことを確認できた。

5. 直入中 税の学習

○ 租税養育を通してつけたい三つの力のうち，① 税・納税に関する正しい「知識・理解」については，社会科の授業だけでは教育課程上3年生の2学期に取り扱いが集中するため，取り立てて授業を実施する必要がある。そこでゲストティーチャーを招いて，またできるだけ体験活動とリンクさせながら「直入中 税の学習」として，全校生徒を対象に実施した。

【H28年度】

税の学習Ⅰ	7月 4日(月)	「芹川清掃」 ○生徒会 美化環境部が中心となり，ふるさとの川「芹川」の河川敷を清掃した。大分県竹田土木事務所長 建設保全課 工藤さんをお招きし，お話と清掃の要領について説明を受けたと，生徒会専門部毎に担当地域の清掃に取り組んだ。
	7月 6日(水)	「全校租税教室」 ○大分税務署 税務広報広聴官 谷口さんを講師に迎え，全校生徒・全職員で芹川清掃での体験をふまえた税に関する授業を実施した。

Ⅱ	夏休み課題	「中学生 税の作文」 ○国税庁他主催のコンクールに，全校生徒で出品

税の学習Ⅲ	2月 4日(土)	「直入中 租税教室」 ○土曜授業 3 限に，各学年毎に税に焦点化した授業を実施し，授業者以外は互見授業にまわった。 [授業者と授業内容] ・3年：校　　長「日本の財政と社会のあり方」 ・2年：社会科教諭「大分県の財政の使い道」 ・1年：教　　頭「竹田市の財政と私たちのくらし」

【H29年度】

税の学習Ⅰ	7月 4日(火) (7/7 金予備日)	「芹川清掃」 ○雨天増水のため，両日とも実施できず。
	7月 11日(火)	「全校租税教室」 ○大分市「ななせ総合事務所」税理士 石倉康弘さんを講師に迎え，全校生徒・全職員で税の役割，納税の意義等に関する授業を実施した。

Ⅱ	夏休み課題	「中学生 税の作文」 ○国税庁他主催のコンクールに，全校生徒で出品

税の学習Ⅲ	9月 12日(火)	「直入中 明るい選挙出前授業」 ○ 3-4 限を全校社会科とし，県選管・市選管の方を G.T.として，おもに税金の使途の決定と選挙という視点で実施した。 [おもな授業内容] ・選挙に関する講座(県選管の方) ・模擬投票と開票作業(市選管の方) ・まとめとふりかえり(県選管の方 と 社会科担当教師)

6. 目指す授業像を生徒と共有

○　H28 年度は，3 学期に生徒と目指す授業を共有する場を持った。研究部が原案を作成し，校内研での議論を経て，校長が朝会で全校生徒に「なぜ学習するのか」「今の時代に求められることは何か」ということと合わせて，生徒に講話をした。

2017 年 1 月 31 日(火)竹田市立直入中学校

【授業で，みなさんと先生たちでめざしたいこと】

○みなさんが生きていく未来は，変化がとても激しい時代です。人工知能の発達などで，今は存在しない職業がたくさん生まれてくると予想されています。そんな時代を生きていくみなさんに「必要な力」は何か。学校生活で多く時間を過ごしている，日々の授業にしぼって考えてみます。

○第一に，今各教科の授業で学んでいることは，絶対に必要なことです。テストのためだけでなく，「生きていくために必要な力の基盤となる」からです。その力をつけるために，準備をしてテストを受け，間違えたところをやり直していると考えて下さい。高校入試は，その延長にあります。

○第二に大事なことは，「**考える力**」，「**判断する力**」，「**表現する力**」の3つを自分の中に育てることです。実はこれこそ，現代社会を生き抜くのに必要な3つの力だと言われています。(この3つの力は，ばらばらでなく，3つで一つ，セットだと思って下さい。)ワークなどでも，この見出しがついている問題が必ずありますよね。

ではこの3つの力は，どういう授業であれば身についていくのでしょうか。

○直入中の先生たちは，この力は「**人と真剣に対話することで育っていく**」と考えています。ここにみなさんと先生たちでめざしたい授業のヒントがあります。それは，

【「課題」や「めあて」を大切にする授業】　【発言がより多くある授業】
【話し合いで深まる授業】　【分かる授業】

です。この4つをみなさんと先生たちとで目指すことで，みなさんに必要な力が育っていくと考えています。

○もちろん，先生の話や説明をじっくり聞いたり，先生の模範演技等をしっかり見たりすることは，絶対に必要です。それは，小学校でも高校でも，社会人になってからも変わることはありません。それをふまえた上で，また二学期の反省に立って考えれば，みなさんと先生たちとでめざしたい授業は，この4つと考えています。

○しかしそのような授業は，先生たちだけ頑張ってもできるものではありません。みなさんと先生たちがいっしょになってめざしてこそ，できる授業です。

みなさん一人ひとりの力を伸ばすために，いっしょに頑張っていきましょう。

※1月31日(火)朝会で校長が全校生徒に講話。同じ内容をプリントで配布。担任が学級通信で同内容を扱う。

○　生徒との授業像の共有が昨年度は3学期になってしまったため，H29年度は1学期の授業改善の総括（おもに「生徒授業評価アンケート」から見えること）と大分県学力定着状況調査の結果をもとに校内研で目指す授業像を設定し，9月の夕会で生徒に説明した。

○　その際，1学期末に取った「生徒授業評価アンケート」の結果を生徒に示しながら，できるだけ多くの教師が説明・提案にかかわることとした。全員がいる場で生徒も教師ともに理想の授業像を目指す雰囲気を醸成することに留意した。

生徒とともに目指す授業像を共有する会について　　2017/09/12（研究部提案資料）

(1) 日　時

○9月13日（水）放課後（多目的ホール:10分程度）

(2) 会の流れ

① A先生が①学期末の授業評価の結果（※　下記資料）をパワポで示す。
② B先生とC先生が，「全校生徒と先生方で創っていく授業像について示す」
③ D先生が，2学期末の「授業アンケート」で，全校生徒と先生方で振り返りをすることを告げる。

(3) 生徒とともに目指す授業

【ともに目指す授業像】

【① 発言がより多くある授業】(B先生)
【② 話し合いで深まる授業】(C先生)
【③ 得た情報から，根拠を持って考える授業】(BC先生)

〔生徒に示す根拠資料「生徒授業アンケートの集約結果」〕

			1学期末結果
①「授業は分かる。」	(総合)	［目標値］80%以上	43人(90%)
②「友達と意見や考えを交流する時間があった。」	(対話的)	［目標値］80%以上	40人(84%)
③「自分の意見や考えを他の人に伝えられた。」	(対話的)	［目標値］80%以上	36人(75%)
④「[課題]や[めあて]に真剣に取り組めた。」	(深い学び)	［目標値］80%以上	41人(86%)
⑤「発表するときは理由もあわせて発表できた。」	(深い学び)	［目標値］80%以上	29人(61%)
⑥「授業後，もっと知りたくなることがあった。」	(主体的)	［目標値］80%以上	32人(67%)
⑦「直入中の授業は，将来の自分のためになる。」	(主体的)	［目標値］80%以上	42人(88%)

※ 複数の教師で生徒に説明・提案

Ⅱ. 獲得した知識・技能の「補充・深化・統合」～ 総合的な学習の時間 等 ～

1. 全校生徒，全教職員，による「ふるさと直入プロジェクト(郷土学)」(総合的な学習の時間)

○　直入中では H27 年度に竹田郷土学の取り組みとして，土曜授業で体験したことから課題設定し，文献で調べたり，フィールドワークをしたり，ゲストティーチャーを読んだりしながら，「ふるさと直入」を共通テーマとした総合的な学習の時間に取り組んだ。同年 10 月に発表会をして，学習の成果を確かめ合った。H28 年度は取組をブラッシュアップして実施し，今年度も昨年度の反省をもとに，取り組んでいる。

○　なお，学年混合で学習する場面では，学年ごとにつけたい力および評価基準を設定するとともに，下の学年が依存的にならないように活動の役割や，教師の指導等にも十分留意している。

ふるさと直入プロジェクト

郷土学担当 (2017/04/24)

※ふるさと直入プロジェクト(略称FNP)

1. 目 的

(1) 人や，もの，事がら(ひと，もの，こと)と出会い，情報の収集等を通して，ふるさとの魅力を発見する。

(2) 情報等を整理・分析し，課題やテーマの答えを追求する活動を通して，思考力・判断力・表現力を高める。

(3) 学習の成果を伝える活動(発表会)をすることで，地域の人に直入の良さを伝えるとともに，直入中の生徒の素晴らしさを知ってもらい，自分たちの自信にする。

2. 生徒に出合わせたい価値(またはそれを含むカテゴリー)

班	A班 8 人	B班 8 人	C班 8 人	D班 8 人	班E8 人	F班 8 人
価値等	「町」	「農」	「夢」	「歴」	「食」	「自然」
○体験活動(5/13の案)	○観光マスター(中村屋主人:廣瀬さん)を招き，お話を聞く。	○ピオーネ栽培農家，直入牛肥育農家，小売店にインタビュー	○美晴ヶ丘の国家資格保有の若人にインタビュー	○歴史や伝統，言い習わし等，郷土史家と歴史探訪に行く。	○伝統料理に出合わせる。(試食と料理人の思い。由来)	○ダムへ行き，国土交通河川管理事務所の方の話を聞く。
学習プラン(案)	□観光用パンフ作成。町内に置く。 □総合パンフ作成	□直入農産物ブランド化プランの策定・プレゼン。	□ふるさと宣伝CM+夢キャラ策定 「直入夢人」制作	□直入町の歴史年表をつくる。 □一部はドラマ化	□新郷土料理の創作に挑戦。 □給食メニュー化	□直入中「環境への提言」まとめ □町民自然憲章
担当者	西森・寳珠山	赤木	堀	三浦	河野・上野	梶原
	教頭(顧問が出張等でいないときは授業代替)					

☆「学習のゴール」は，
① 7/14(金)の発表会で「調べたことを発表する」こと。
② 当日来場者に配布できるよう，A班が総合パンフを作成する。原稿作成は各班。A5サイズで2枚以内とする。

3. 学習計画

【5 月】

9	火	3限 前半25分 後半25分	①全校学習ガイダンス(多目的ホール:三浦) ○全校生徒を対象に ①学習の意義 ②発表会までのおおまかな道筋 ③その他について説明をする。 ②所属班希望アンケート等(各教室:学級担任) ○各学級でA～Fの第1,2,3希望をとる。担任で調整し，翌日学活で発表。

11	木	5限 総1 (授業時数) 全22時間	**③体験(調査)活動の計画1**(各活動教室) ① 担当教師が5月13日(土)の「土曜授業」での体験(調査)活動の説明をする。 ② グループリーダーを中心に，ワークシートにそって，必要な打ち合わせをする。 【基本の活動場所】

A	B	C	D	E	F
町 3年教室	農 1年教室	夢 2年教室	歴 図書館	食 音楽室	自然 理科室

※ 1グループに1部屋を割り当てる。
※ 多目的ホールとPC室は事前確認して共用スペースとして利用する

13	土	1～3限 総4	**④「調査活動1」**(8:30～11:30:各グループの活動場所) ○ グループ毎に体験(調査)活動をする。 ○ 15日(月)にどんな体験だったか全体に報告できるよう，画像を記録する。

15	月	5限 総5	**⑤「情報などの整理・分析1」**(基本の活動場所) ① 体験(調査)活動の感想を出し合う。 ② (生徒の学習の様子を見取り，指導の手がかりとする。) ③ どんな学習にしていけば，FNPの目標を実現できるかという視点で話し合う。課題またはテーマは仮でよい。ポイントは，「何についてみんなで追求し」，「何をゴールとするか」という2点を共有すること。
		6限 総6	④ 6限に多目的ホールに集まり，各班ごとに，「どんな体験活動だったか」と，「話し合った内容」について，口頭で発表し，学習を全体で共有する。撮った画像を使う。 ⑤ 今後の学習の予定を確認する。 **↑発表(表現力)の場**

16	火	2～3限 (教研 午後放課) 総8	**⑥「課題やテーマの設定」(多目的ホールで一斉に取り組む)** ① 調査活動1で得られたことを，「思考ツール」を使って整理する。 ② 課題またはテーマを設定する。ただし，この段階のものでもよい。学習がすすむと，変わっていく場合もある。 ④ 3限の後半20分から，各班のグループリーダーが，今のところの学習の進行状況について口頭で発表し，学習を全体で共有する。 **↑発表(表現力)の場** ⑤ 今後の学習の予定を確認する。

インターバル　※ 5月23日(火)　・「中間テスト」
期　間　※ 5月25日(木)～26(金)　・「2年生 職場体験」

【6 月】

9	金	3～4限 総10	**⑥体験(調査)活動の計画2**(基本の活動場所) ① G.Lを中心に，先生の支援を得ながら，6月3日(土)の調査計画を立てる。 ② その他必要な活動をする。 ③ 終了15分前に全校で集まり，G.Lが「課題(テーマ)」と「土曜に何をするか」発表し，全校で共有する。 ④ 調査計画書のコピーを一部「郷土学」担当に提出する。

10	土	1～3限 総13	⑨「調査活動2」(8:30～11:30:各グループの活動場所)【部活動なし※この週中体連あり】 ○ グループ毎に調査活動をする。

12	月	3～4限 総15	⑩「情報などの整理・分析2」(基本の活動場所) ○調査活動2で得られたことを整理する。 ○発表の全体像を考えながら，さらなる調査の必要があれば，計画を立てる。

インターバル　※ 6月20日(火)　・「市中体連 陸上大会」
期　間　※ 6月29日(木)～30(金)　・「1学期 期末テスト」

【7 月】

8	土	1～3限 総18	⑪「まとめ1」(8:30～11:30:各グループの活動場所)【部活動あり】 ○ 発表に向け，グループ毎に活動する。

10	月	5～6限 総20	⑪「まとめ2」(各グループの活動場所) ○ 発表に向け，グループ毎に発表練習をする。

14	金	2～3限 総22	⑪「学習発表会」(多目的ホール) ○ 期末PTAの際に，グループ毎に学習の成果を発表する。 (案)☆1限:普通授業 **☆2～3限:FNP発表会** ☆学活・給食・休憩 ☆M.F. ☆期末PTA

【ふるさと直入プロジェクト(総合的な学習の時間)】

(↑フィールドワークでインタビュー)

(↑集めた情報を整理・分析)

(←ICT機器を上手に使って発表)

2.「綴る」取組

○　H28 年度は，行事の翌日，朝読書の時間の 20 分間で「作文を書くことで自分を見つめ，自分と対話し，体験を振り返る」。という取組を全学年で 1 年間続けた。

○　3 年国語科で週 3 回朝読書の時間に「天声人語」の取組を 1 年間続けた。（火木は朝読書）

○　今年度は 1，2 年生でも国語科の家庭学習として，月に数回程度実施している。

○　各教科で学んだことを補充･深化･統合する機会が保障され，生徒の「思考力･判断力･表現力」の高まりにつながった。全国調査 3 年国語 B 問題で最も正答率の低かった問題を 2 月に再度 3 年生に解かせたところ

･4月27日[直入中正答率 30.8%]	→	･2月7日[直入中正答率 76.9%]

に上昇した。このことからも，総合的な学習の時間や「天声人語」等の取組において，「思考力･判断力･表現力」を高める意図を持って取り組んできたことは有効であったと思われる。

〈 国語B問題で最も正答率が低かった問題 〉

問い【雑誌の記事】の説明として最も適切なものを，次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1 A で宇宙エレベータの仕組みや実現の可能性が高まった理由を述べた上で，
B,C で実現した際の具体的な利点を書いている。
2 A で宇宙エレベータの仕組みや実現の可能性が高まった理由を述べた上で，
B，C で実現するための具体的な課題を書いている。
3 A，B で宇宙エレベータの仕組みや実現の可能性が高まった理由を述べた上で，
C で実現した際の具体的な利点を書いている。
4 A，B で宇宙エレベータの仕組みや実現の可能性が高まった理由を述べた上で，
C で実現するための具体的な課題を書いている。

設問の概要	出題の趣旨	正答率
雑誌の記事の説明として適切なものを選択する 4月27日　実施	文章の構成を捉える 領域【読むこと】	直入中 30.8% 大分県 64.4% 全　国 64.9%

2月7日に同じ問題の調査を実施

直入中 76.9%

正答率が大きく向上した理由として，①「国語科[天声人語]」の取組や，②「総合的な学習の時間(郷土学等)」での取組の積み上げで，各教科で獲得した力が補充･進化･統合され，その結果[思考力･判断力･表現力]が高まったからだと考えている。

Ⅲ.「自分と社会の関わりについて考える」～ 道 徳 ～

1.「価値を論じ合う道徳」の研究

○　H31 年度からの道徳教科化に向けて，今が大切な時期である。生徒の豊かな道徳性を涵養し，豊かな人生を保障するため，直入中の校内研では今から「価値を論じ合う道徳」に全教職員が習熟し，実践を積み重ねていく必要を共通理解し，取組を始めたところである。

○ H28 年度第 10 回校内研(10 月 28 日)で，3 年道徳の授業提案を実施した。市，県の指導主事を招き，充実した授業研究となった。その中で，11 月から月 2 回の全校一斉道徳の時間を組み，学年部で題材や展開等十分協議し，おもには道徳の副読本を用いて「価値を論じ合う道徳」の授業実践を始めており，生徒教師ともに道徳の授業への習熟をはかっている。

○「租税教育を通してつけたい力」のうち，

② 社会に積極的に参画し，よりよい未来を築こうとする「意欲・態度(学びに思向かう力・人間性 等)**」**

③ 故郷に誇りを持ち，それを土台に未知の状況に対応できる「実践力(思考力・判断力・表現力 等)**」**

の力を身につけさせることについて，道徳の役割も大きいと考える。また主題の「社会や自分の未来を見つめ～」に関して，道徳の「主として集団や社会との関わりに関すること」の内容項目中の[公正・公平]と[郷土愛]を重点項目に設定している。そして「道徳教育全体計画の別葉」を，二つの重点項目および各学年の課題に応じて策定し，関連する行事をふまえながら，道徳の授業を実施している。しかし計画的な授業実施が完全にはできていないなど，現時点では課題もある。

【資 料：直入中「道徳教育の全体計画 別葉」(部分)】

竹田市立直入中学校

直入中版 道徳教育の全体計画「別葉」のイメージ(道徳の時間と教科指導・特別活動等との関連表)

道徳教育の重点目標	○ 自他のよさを認め，自ら判断し，よりよく生きようとする生徒の育成をめざす。

第1学年の重点指導内容項目	○2-(2) 思いやり　○4-(3) 公正・公平

内容項目		道徳の時間 (教材「私たちの道徳」から)	特別活動 学級活動 (県版「学級生活」から)	特別活動 生徒会活動 (「生徒会議案書」から)	特別活動 学校行事 (年間教育活動計画)から	総合的な学習の時間 (教育課程から)	各教科 (教育課程から)
1 - (1)	望ましい生活習慣，健康，節度	(1)調和のある生活を送る	・1 学期の反省 ・2 学期を迎えて ・今年の反省と新年の誓い	・生徒会オリエンテーション	・オリエンテーション ・身体測定　・弁当の日 ・1 学期始業式	・	・望ましい食生活(家)
1 - (2)	希望・勇気・強い意志	(2)目標を目ざしやり抜く強い意志を	・入学の誓い ・中学生になって ・進級にあたって	・あいさつ運動(通年)	・入学式　・卒業式 ・中体連　・久住山登山 ・校内ロードレース大会	・FNP 調査活動	・明日(国) ・走れメロス(国)
1 - (3)	自主・自律・責任	(3)自分で考え実行し責任を持つ	・生活をみなおそう	・生徒総会　・役員選挙 ・クリーンアップデー	・文化祭	・FNP 話し合い活動	
1 - (4)	真理愛 理想の実現	(4)真理・真実・理想を求め人生を切り開く	・進路学習	・生徒総会　・役員選挙			
1 - (5)	向上心 個性の伸長	(5)自分を見つめ個性を伸ばす	・私の学習方法 ・進級にあたって	・スピーチコンテスト	・二者面談	・FNP まとめ活動	・日本語弁論(英語) ・作品作成(美技家)
2 - (1)	礼 儀	(1)礼儀の意義を理解し適切な言動を	・中体連への参加	・あいさつ運動(通年)	・中体連	・FNP 調査活動	
2 - (2)	人間愛 思いやり	(2)温かい人間愛の精神と思いやりの心を	・中体連への参加				・やさしい日本語(国) ・盆土産(国)
2 - (3)	信頼・友情	(3)励まし合い高め合える生涯の友を	・本当の友だちとは	・生徒会の日			・走れメロス(国)

2017/08/02 仮掲載

2.「新聞コーナー」

○　学校教育におけるNIE(新聞を教材として活用した教育)は，これまでも主に国語科や社会科を中心に展開されてきた。本校では教科の授業で活用することはもちろん，生徒が日頃から社会の出来事に関心を持つ機会を保障しようと，H28年度から校内に新聞コーナーを設置し，毎日その日の朝刊を数誌生徒が読めるように整備している。

○　休み時間に新聞を読むじっくり生徒もでてきて，またそこまではなくとも，授業の合間の時間に興味のある見出しがあると，少し立ち止まって読んでく生徒も多い。新聞記事をもとに，教師に今おきている社会のできごとについて質問したりする場面もある。「自分と社会の関わりについて考える」の一環と捉え，今後も続けていく。

H29「中学生税の作文」応募作品

「税金のおかげで」
竹田市立直入中学校 2年 男子生徒

6月6日，竹田市中体連球技剣道大会があった。僕たち卓球部は，団体戦で県体出場が決定した。僕たちは開会式に出るため，ホテルに宿泊することになった。はじめは「各家庭でお金を出して宿泊するのだろう」と思っていた。それに県体に向けての練習でボールを追加した時も，「部費でボールのお金を出しているのだろう」などと考えていた。

しかし，県体前日のミーティングでコーチが「ホテルの宿泊やボールのお金は税金で払われている」ということをおっしゃっていた。

僕はそこで税金のありがたさを実感した。

税金なんか，お金を無駄に払うだけなどと思っていたが，こんなところでも税金を使っていることを，ありがたいと思った。

そして，夏休み前に税理士の方が学校に来て下さった。昨年も税理士の方が来て下さったけど，話の内容が難しくてあまり覚えていなかった。だけど一つ学年が上がり話の内容もよく分かった。特におどろいたのは，火事の際火を消すのは無償で火を消してくれるのかと思っていたが，火を消すのにもお金がかかっていて税金で支払っているということに驚いた。他にも警察官なども税金で働いているということも知った。

自分が何気なく使っている公園も税金で作られており話の中でいろいろなことを学んだ。

僕はもう一つ驚いたことがあった。それは，公立学校の生徒一人あたりの国と県と市町村の年間教育費の負担額で，中学生で約九十八万四千円も負担しているということだ。一人あたり百万円も負担してくれているということに，ありがたみを感じた。しかも国の一般会計歳出額が九十六兆七千二百十八億円というケタが大きすぎて，あまり想像できないが，それだけのお金が出ているということも知れた。

税金はいろいろな種類があって今はほとんど知らないけど，今からもっと知ってしっかり税金を納めていきたいです。

僕たちは，県体や部活で税金に助けられているので，もっと税金について知りたいと思いました。まだ来年もあるので，税金に支えてもらいながら，学校生活や部活に励んできたいです。

なかなか税金について深く知ることができないので，学習はいい経験になりました。これからは，税金のおかげでいろいろな事が成り立っているという事を忘れずに，これからの学校生活を過ごしていきたいです。

Ⅳ.「より良い学校・地域づくりへの参画」～ 特別活動 ～

1. 社会の中の自分という視点からの教育活動

○　大分県租税教育推進協議会は租税教育について，

> 納税率を高めるものでなく，租税を題材とする民主教育であり，委嘱校の教育目標を達成することを目指すものである。

としている。教育目標実現に向けて，租税教育を教育研究や教育活動の視点としてきた直入中の取組みは正しかったと言える。また，

> 租税に関連した事項を通して郷土に関心を高め，公民としての資質を身に付け，国家及び社会における権利と義務の主体者として，自主的に判断し行動するための諸能力を育てる。

ともあり，生徒が将来主権者として必要な諸能力を育成することの重要性が示されている。将来生徒が主権者としての正しい自覚をもって社会に主体的に参画し，より良い未来を築いていこうと力を発揮できるようにするためには，知識として税･納税について理解させるだけでなく，「社会と自分がつながってる」ことを自覚させる教育活動が不可欠である。

○　H28 年度から全校ボランティア活動として「芹川清掃」を始めた。租税教育の視点からもねらいを設定して取り組んでる。国土交通省河川管理課や竹田市役所直入支所の職員の方もともに作業する機会を設け，故郷の川を公共財として見つめさせる機会とした。事後には道徳で，･郷土愛や･勤労･公共の精神，･社会参画など，「主として集団や社会との関わりに関すること」の内容項目の道徳を実施し，体験活動との関連をはかりながら，社会と自分との関わりについて道徳的な価値の側面から考えさせる取組をしている。

○　同じように「全校租税教室」の後に「税の作文を自分と社会とのつながりを考えて書こう」というテーマで全校社会科を実施した。各教科でも，社会と自分のつながりを意識させる授業展開を可能なところで扱うよう「租税教育カレンダー(単元の配列表)」を作成して，教師集団で進捗等を確認しながら取組をすすめている。

2. Q-U検査を活用しPDCA化した集団づくり

○　生徒が自ら伸びていこう，高まっていこうと思うためには，自分が所属する学級集団に安心していることができ，また自分の学級の中に心の居場所があることが不可欠である。主体的な学習も，そういう基盤があってこそ成り立つ。互いに高め合い，磨き合える集団を育成するため，Q-U 検査を活用し PDCA 化した集団づくりに取り組んでいる。

2. Q-U検査を活用しPDCA化した集団づくり

○　生徒が自ら伸びていこう，高まっていこうと思うためには，自分が所属する学級集団に安心していることができ，また自分の学級の中に心の居場所があることが不可欠である。主体的な学習も，そういう基盤があってこそ成り立つ。互いに高め合い，磨き合える集団を育成するため，Q-U 検査を活用し PDCA 化した集団づくりに取り組んでいる。

【「Q-U検査を活用し，PDCA化した集団づくり」の流れ】

Ⅰ期：○ 5 月に Q-U 検査を実施して集団と個の実態を分析・把握する。
○ 気になる子ども・支援を要する生徒を把握し，その生徒が立たされている状況や困りそのものやその背景にあることについて，Q-U 検査分析結果をもとに学年で理解を深める。

↓

Ⅱ期：○ Q-U 検査で得られたことをふまえて，行事や活動に学年ごとの意味づけをして，級集団としての目的を持たせて取り組む。
○ 学年部で支援を必要とする生徒への個別の支援計画を立て，校内研で共通理解する

↓

Ⅲ期：○ 2 学期末に 2 回目の Q-U 検査を実施し，集団と個の変容について学年で分析する
○ 再び学年部で支援を必要とする生徒への個別の支援計画を立て，校内研で共通理する。

↓

Ⅳ期：○ 2 回目の Q-U 検査の分析で得られたことをふまえて，課題を焦点化して 3 学期の事や活動に学級集団としての目的を持たせる。また，次年度への引き継ぎ資料としてデータベース化する。

【直入中Q-U分析シート書式(記入の例)】

第○学年Q-U分析(1回目)

【1.集団について】

○満足群	…x 人	○非承認群	…x 人	○侵害行為認知群	…x 人
○不満足群	…x 人			※要支援群	…x 人

【2.Q-U結果や日頃の様子から】

	今後の具体的対策など
○男 子	○道徳の時間に人権的な題材を取り扱うとともに，学んだことについて別の時間に自分に重ね合わせて考えさせる機会を持つ。記述させる。
○女 子	○担任が周りに聞かれる心配のないときに声をかけ，いつも見守っているというメッセージを与える。この生徒に関して養護教諭との連絡を密にする。
○男 子	○係を新設するなど学級の中での活躍の場を増やし，良かったことを具体的に示しながらほめ，自信をつけさせる。
○女 子	○学年部職員で雑談で本人が自信にしているピアノの話題について聞く。音楽科担当教師が，学級合唱の伴奏者としてみんなの前で指名する。
○男 子	○毎日肯定的な声かけをする。話を聞くときには他のことをその子の目の前ですべて中止して全力で聴く。生活ノートのことを話題にする。

【3.集団づくりの具体的な取組の例】

① 学年集会を月に 2 回持ち，生活を振り返らせる機会を持つ。生徒に運営させる。学年の先生から，集団の姿の現状と今後目指すべき方向　　等についてお話をしていただく。

② 月に 1 回，道徳の時間に S.G.E.(構成的グループエンカウンター)を実施する。学年部全員で取り組む。

Ⅵ.研究のまとめ

○　この２年間にわたる本校の研究や取組は，それこそこの紀要に載せないものも含めれば，多岐にわたる。それらに共通するのは，「主体性」を基調としながら，「租税教育の視点から芯を通した取組」であるということである。検証を下に示す。

1. 研究の達成指標から

	検証指標	H28評価結果	評価	
H28年度	①「**授業は分かる。**」［目標値］生徒の割合80%以上	3学期生徒アンケート 73%	B	B
	②「**直入中の学習は，将来の自分のためになる。**」［目標値］生徒の割合80%以上	3学期生徒アンケート 90%	A	
	③「**直入中をよりよくするために，自分は力を出している。**」［目標値］生徒の割合80%以上	3学期生徒アンケート 88%	A	
H29年度	↑ **同じ質問項目** ↑	H29 1学期評価結果	評価	A
		1学期生徒アンケート 90%	A	
		1学期生徒アンケート 88%	A	
		1学期生徒アンケート 78%	B	

※ H29年度は1学期の値のみ

2.「生徒授業評価」から

【「H28年度 生徒授業評価」1学期末から3学期初めにみられる変容】（全教科を合計した結果）

	4.5評価	1学期	3学期	2.1評価	1学期	3学期	評価	
① 授業の内容は分かった	「思う」	88%	73%	「思わない」	12%	27%	C	B
② めあてや課題に真剣に取り組めた	「思う」	88%	81%	「思わない」	12%	18%	A	
③ 友だちと考えを交流する時間があった	「思う」	94%	85%	「思わない」	6%	15%	A	
④ 自分の意見や考えを他の人に伝えられた	「思う」	90%	82%	「思わない」	10%	18%	A	

【「H29年度 生徒授業評価」1学期】（全教科を合計した結果）

	4.5 評価	1学期	3学期	2.1 評価	1学期	3学期	評価	
① 授業の内容は分かった	「思う」	90%	%	「思わない」	10%	%	A	A
② めあてや課題に真剣に取り組めた	「思う」	88%	%	「思わない」	12%	%	A	
③ 友だちと考えを交流する時間があった	「思う」	84%	%	「思わない」	16%	%	A	
④ 自分の意見や考えを他の人に伝えられた	「思う」	75%	%	「思わない」	25%	%	B	

○　約2年間にわたる租税教育の取組みを振り返ると，最初は「租税教育とは何か」「税・納税について教える（扱う）のが租税教育ではないか。だから道徳とかは違う。」といった入り口のところでの議論があった。しかし租税教育の目標や意義について学習していく中で，「租税教育のねらいを実現するために，各教科，領域で扱える（または扱わなければならない）ところが多い」ことが分かった。すると教職員集団の中に，「租税教育を通して，教育目標を実現しよう」という合意が生まれた。

○　この合意が H28 年度 1 学期に生まれてからは，さらに「教育目標の実現のために，租税教育を視点として，直入中の教育活動を再定義・再構築していく」という教育研究につながっていった。その集大成が，前掲の「直入中 租税教育カレンダー」である。今やこのカレンダーにそって教育活動が展開されている様を見ると，租税教育に取り組んできたことで，何より教職員集団として成長できたことを感じる。

○　直入中の教職員集団が租税教育に取り組んでいる原動力の一つは，「子どもたちが生きていく未来の，予測できない大きな変化」が確実にあるということである。子どもたちの幸せを願わない教師はいない。一方で目の前の子どもたちが生きていく未来を思うと，「未来のために，今なさなければならない教育がある」ことにあらためて気づかされる。教師という職業は，未来への責任を負っていることにも気づかされる。これらの気づきも，租税教育が直入中教職員集団にもたらした良い影響である。

○　租税教育は，主題となる「租税」そのものが未来への投資であるから，必然的に「子どもと社会」，「子どもと未来」をつなげる側面を持つ。一方で教職員集団にとっても租税教育に取り組むことで，社会や未来とつながる教育を目指すようになる。例えば「授業改善」や「社会に開かれた教育課程」，「学校改革」，「貧困対策のプラットフォーム」，「がん教育」，「E.S.D.」など，かつてなかった多大な役割が学校に期待されている理由が，租税教育に取り組んだことで「腑に落ちる」のである。

○　私たちは目の前の子どもたちが生きていく未来と同じものを見ることはできないかもしれない。しかし私たちがたった今行っている教育活動こそ，子どもたちの，そしてこの国の未来を支える大切な営みであることを強く自覚する。

－ 貴重な学びの機会を与えていただいた大分県租税教育推進協議会をはじめ
関係各位に心から感謝するものである。－

資 料

1. 直入中租税教育の全体イメージ

2. これまでの授業実践

「自分や社会の未来を見つめ，主体的に学ぶ生徒」を育む教育活動の全体イメージ

竹田市立直入中学校

☆「ねらいを明確に」し，それを「共有」
☆十分な「事前指導」と，本番は「任せる」
・諸行事の生徒主体の企画・運営
・「芹川清掃」(ボランティア)
・Q-U検査を活用した集団づくり

○「よりよい学校・地域づくりへの参画」を通して，協力・協働して諸問題を解決しようとする態度を養う

特別活動　等

☆「集団や社会との関わりに関すること」
[公正・公平][郷土愛]を重点項目に
・社会の中の自分という視　点からの授業づくり
・体験活動と結びつける
・価値を「論じ合う」道徳の共同研究

○「自分と社会とのかかわり」について深く考えさせ，公民としての資質を養う。

道　徳

将来の「資質」の基盤としての主体性

・個意見を全体に
・深く話し合う
・読み取る
三課題

【本校における租税教育を通してつけたい3つの力(資質・能力)】

① 税・納税に関する正しい「知識・理解」
② 社会に積極的に参画し，よりよい未来を築こうとする「意欲・態度(学びに思向かう力・人間性　等)」
③ 故郷に誇りを持ち，それを土台に未知の状況に対応できる「実践力(思考力・判断力・表現力　等)」

○自分や社会の未来を見つめ，主体的に学ぶ生徒

総合的な学習の時間　等

各　教　科

「学ぶ姿」として期待する主体性

○獲得した知識・技能の「補充・深化・統合」
→総合でも思・判・表を育成

☆思・判・表を活かす学び
☆「地域に開かれた教育課程」を視野に
・郷土学(総合「ふるさと直入プロジェクト」)の推進
・体験的な学習の推進
・「直入中　綴る取組」
・「イベント」でなく，「探求的な学習活動」の推進
(・課題の設定→・情報の収集→・情報の分析→・まとめ)

○生徒が主体的に学ぶための「授業改善」
→主体的・対話的で深い学びを指向して

☆言語活動の充実
☆新大分スタンダードをふまえた授業づくり
・「主体性」についての共通理解
・生徒授業評価と互見授業を連動させた授業改善
・全員提案授業(ジグソー学習)
・「全校租税教室」,「選挙出前授業」等の「直入中税の学習」
・生徒と教師で共にめざす授業

○理科

○英語科

○国語科

○数学科

○体育科

○社会科

○音楽科

【 2年 国語科 】授業プラン[知識構成型ジグソー法]

授業日	2017年 1月18日(4) 限
授業者	神志那 郁
学習者	第 2 学年 19 名
備 考	教材作成者

【直入中3学期 [授業改善]の柱】
- ペアや3人組活動の充実
- 生徒の学習意欲を喚起する「課題」「ねらい」
- 質の高い学びのための「7つの学習規律」

単元名	第1編第1章「世界の姿」	到達してほしい目安
単元の指導計画	1. ・評論文の特徴をおさえる。 ・「最後の晩餐」を見て知っていることと感想を書かせる。 ・本文を読み、筆者がどのように評価しているかをおさえる。	・「最後の晩餐」の魅力に気付かせるとともに評論の文章を読む楽しさを味わわせ、ものの見方や考え方を広げることができる。（関心・意欲・態度）
	2. ・「最後の晩餐」の何が筆者に「かっこいい」と思わせたのか考えさせる。（本時）	・ジグソー活動を通して、筆者の考える「最後の晩餐」の魅力や絵画の見方を読み取ることができる。（読む）
	3. ・「最後の晩餐」を評価する言葉として「かっこいい」は適切か否か考えさえる。	・筆者のものの見方や考え方について、自分や他者との比較を通して自分の考えをまとめ、深めることができる。

本時の題材	「君は『最後の晩餐』を知っているか」（2/3）
本時のねらい (評価基準・評価の観点) (一つだけ)	・筆者の見方・考え方を読み取ったうえで、自分の考えと比較し、改めて自分の考えを見直すことができる。

「課題」 または 「めあて」

課 題「何が布施さんに『かっこいい』と思わせたのか解明しよう」

「まとめ」や「ふりかえり」で期待する解答の要素や，含まれてほしいストーリー

- 三つの技法から得られる効果により、筆者は「かっこいい」と思った。
- 実際にキリストたちが一緒に食事をしているような錯覚を起させるから筆者は「かっこいい」と思った。
- ダヴィンチが科学的に絵を描いていることが感じられるから筆者は「かっこいい」と思った。

本時の学習活動のデザイン

時 間	学 習 活 動	支 援 等
5分	〈導 入〉 ・本時の課題を確認する。	○本時の課題を告げる。
	何が筆者に『かっこいい』と思わせたのか解明しよう	
	・個人で課題に対する予想を書く。	○ワークシートに最初の答えを書かせる。 ○この単元のめあてである「この絵を評価する言葉として『かっこいい』は適切か否か意見を述べることができる」を再度確認させる。
15分	〈エキスパート活動〉 「最後の晩餐」に用いられている技法とその効果を、絵を用いて伝えられるようにする	

エキスパート資料A 解剖学	エキスパート資料B 遠近法	エキスパート資料C 明暗法
・さまざまな手の表情があり、驚き、失意、怒り、	・壁やタピスリーに遠近法が用いられて、奥行きが	・右側は光があたって明るく、左側は暗い

	諦めなどが見える。 ・ダヴィンチは、人体の解剖を通して骨格や筋肉を研究していた。 ・手だけではなく、顔の表情や容貌に一人ひとりの心の内面が描かれている	感じられる ・遠近法の中心がキリストにあり、見る人の視線が自然とキリストに集まる ・設計図のような絵	・実際の食堂から差し込む光の方向と合致している ・実際の光景と一体化している

10分	〈ジグソー活動〉 「最後の晩餐」の何が筆者に「かっこいい」と思わせたのか	
		○３つの技法を合わせることによりどのような効果が生まれるかを考えさせる。 ○机間指導を行い、必要な班には絵が描かれた場所や絵を見た時の感想を振り返らせる。 ○班の答えをホワイトボードに書く。
10分	〈クロストーク活動〉	○班の考えを発表させる →そのように考えた根拠を述べさせる。
10分	〈一人で〉 ・改めて課題に対する答えを書く。 ・本時の学習を経て、「かっこいい」という言葉が適切か否か、自分の考えを書く。	○ワークシートに自分の意見を書かせる。 ○次回の予告をする。

【成果と課題】

[成果]
・発表する人、聞く人ともによい。
・話し合いがしっかりと行えていた。

[課題]
・課題は「どうして筆者は『かっこいい』と思ったのか」など、疑問形にする。
・絵を重視したため、本文を読み取れていなかった。
・話し合い中には指示をしない。指示を行う場合は板書するなど生徒の思考を妨げない配慮が必要

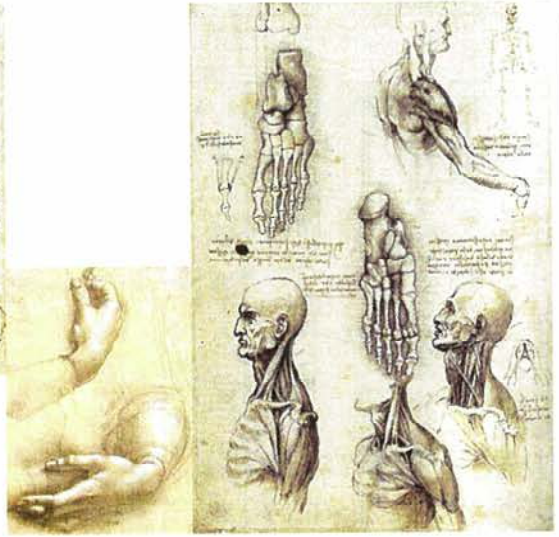
エキスパートA　（解剖学）

（　　）番　名前（　　）

本時の課題
何が布施さんに『かっこいい』と思わせたのかを解明しよう。

弟子たちの動揺は、手のポーズにも表れている。たくさんの手が描かれているが、試しに、その一つ一つのポーズを君もまねてみよう。手のポーズは心の動きを表すが、ここにはいろいろな手があり、いろいろな心の動きがある。驚き、失意、怒り、あきらめ……。まるで手のポーズの見本帳である。それは、手に託された心の動きの見本帳でもある。

レオナルドは、どうしてこんなにもうまく、いろいろな手を描くことができたのだろうか。実は、彼は人体の解剖を通して骨格や筋肉の研究をし、人の体がどのような仕組みでできているかを知り尽くしていた。だから、手だけでなく顔の表情や容貌も、一人一人の心の内面までもえぐるように描くことができた。



レオナルドが描いた筋肉の解剖図

[エキスパート活動]

＊「最後の晩餐」に描かれている人物の手や表情から、どのような感情が読み取れるだろうか。前回の本文に書かれていた絵の情景や、今回の本文を参考に、絵に直接書き込もう。

＊「解剖学」がもたらす効果とは・・・。

[ジグソー活動]

＊　まずは、エキスパート班でまとめたことについて発表し合おう。

＊　何が筆者に「かっこいい」と思わせたのだろうか。班で意見をまとめよう。

[まとめ]

『最後の晩餐』の何が布施さんに『かっこいい』と思わせたのか。

エキスパートB　（遠近法）

（　　）番　名前（　　）

本時の課題
何が布施さんに『かっこいい』と思わせたのかを解明しよう。

さらに注目してほしいのは、ここに描かれている室内の壁や天井だ。壁のタピスリーや天井の格子模様を見てみよう。壁がだんだん狭くなって、タピスリーも奥にいくほど小さくなる。これが遠近法だ。レオナルドは、絵画の遠近法を探究し、それをこの絵で完成させた。この絵には、遠くのものは小さく見えるという、遠近法の原理が使われている。室内の空間を、遠くにいくにつれて小さく描くことで、部屋に奥行きが感じられるようになる。

遠近法には、さらに別の効果もある。壁のタピスリーや天井の格子など、奥に向かって狭まっていく線を延ばしていくと、その線は一つの点に集まる。これを遠近法の消失点というが、なんと、その点の位置が、キリストの額なのだ。これにより、絵を見る人の視線は自然とキリストに集まっていく。この絵の主人公は、キリスト。誰が見ても、そう思わせる効果がある。遠近法という絵画の技法が、そこに描かれた人物たちの物語を、ドラマチックに演出している。これは、描かれた絵が偶然そうなったということではない。レオナルドは、明らかに計算をしてこの絵を描いたのだ。その証拠に、キリストの右のこめかみには、くぎの穴の跡がある。このくぎから糸を張って、あちこちに延ばし、画面の構図を決めていったのだ。まるで設計図のような絵ともいえる。

[エキスパート活動]

＊　絵を使って説明できるようにしよう。

＊「遠近法」がもたらす効果とは・・・。

[ジグソー活動]

＊　まずは、エキスパート班でまとめたことについて発表し合おう。

＊　何が筆者に「かっこいい」と思わせたのだろうか。班で意見をまとめよう。

[まとめ]

『最後の晩餐』の何が布施さんに『かっこいい』と思わせたのか。

エキスパートC　（明暗法）

本時の課題
何が布施さんに『かっこいい』と思わせたのかを解明しよう。

また、レオナルドは、光の効果も緻密に計算していた。描かれた部屋の白い壁を見ると、右側には光が当たり、左側は影になっている。この壁画は食堂の壁に描かれているが、描かれた部屋の明暗は、食堂の窓から差し込む現実の光の方向と合致している。そのため、壁に描かれた部屋は、あたかも本物の食堂の延長にあるようにすら見える。

（　　）番　名前（　　）

[エキスパート活動]

＊「最後の晩餐」の絵を使って説明できるようにしよう。

＊「明暗法」がもたらす効果とは・・・。

[ジグソー活動]

＊　まずは、エキスパート班でまとめたことについて発表し合おう。

＊　何が筆者に「かっこいい」と思わせたのだろうか。班で意見をまとめよう。

[まとめ]

『最後の晩餐』の何が布施さんに『かっこいい』と思わせたのか。

【 3年社会科 】授業プラン[知識構成型ジグソー法]

・授業日	2016年7月13日(水)4限
・授業者	三 浦 祐 一
・学習者	第3学年 13名
・備　考	教材作成者 三 浦 祐 一

【研究の重点】

- ○ 筋道立った，問題解決的な授業の推進
- ○ 自分の意見や考えを持てる展開がある授業の推進
- ○ 自尊感情の高揚

単元名	「4. 日本の工業」	到達してほしい目安
単元の指導計画	1. 公民の学習のはじめにあたって	・公民の学習に関心を持つ。
	2. 20年後の未来(本時 2/6)	・日本の未来に関心を持つ。
	3. グローバル化	・グローバル化を大まかににとらえる。
	4. 情報化	・情報化社会の光と影について知る。
	5. 少子高齢化	・少子高齢化について理解を深める。
	6. 持続可能な社会に向けて	・めざすべき社会のあり方について考える。

本時の題材	「20年後の未来」(2/6)
本時のねらい (評価基準・評価の観点)	○ 20年後の未来について，人口，技術革新，多文化共生社会の視点から多面的に考え，筋道だった説明をすることができる。(関心・意欲)

「課題」または「めあて」

課 題「私たちが暮らす20年後は，どんな社会になっているだろうか」

「まとめ」や「ふりかえり」で期待する解答の要素や，含まれてほしいストーリー

○ 少子高齢化がさらに進展し，今より少ない働き手で支えることになるが，産業が大幅に自動化，効率化し，人手不足を大きく補う。今より多様なルーツを持つ人々で構成される社会になり，多様な文化・価値観・考え方などが常に融合しようとする，活力みなぎる社会に変容する。

本時の学習活動のデザイン

時 間	学 習 活 動	支 援 等
10分	〈導 入〉	
	・本時の課題を確認する。	○本時の課題を告げる。
	私たちが暮らす20年後は，どんな社会になっているだろうか	
	・個人で課題に対する予想を書く。	○ワークシートに最初の答えを書かせる。 ○「分かったこと」と，「分からなかったこと」を伝えられるよう，準備させる。
15分	〈エキスパート活動〉	
	エキスパート資料A ○日本の高齢化の数位と将来推計を示す棒グラフ ※補助資料として，同じ棒グラフだが，帯に数値の入ったグラフ	
	エキスパート資料B ○読み物資料「人工知能がもたらす変革」	
	エキスパート資料C ○日本で暮らす外国人数の推移を示す棒グラフ ○日本で働く外国人(コラム)	
15分	〈ジグソー活動〉	○机間巡視をしながら，必要に応じて支援をする。
10分	〈クロストーク活動〉	○班の答えをホワイトボードに書く。 ・生徒の話し合いの成果を尊重し，そのまま発表させる。班の意見に教師が解説や補足をしない。(生徒同士の「協働」の尊重)
	〈一人で〉 ・授業での活動をふまえ，個人でもう一課題に対する答えを考え，書く	○次時の予告をして，終わる。

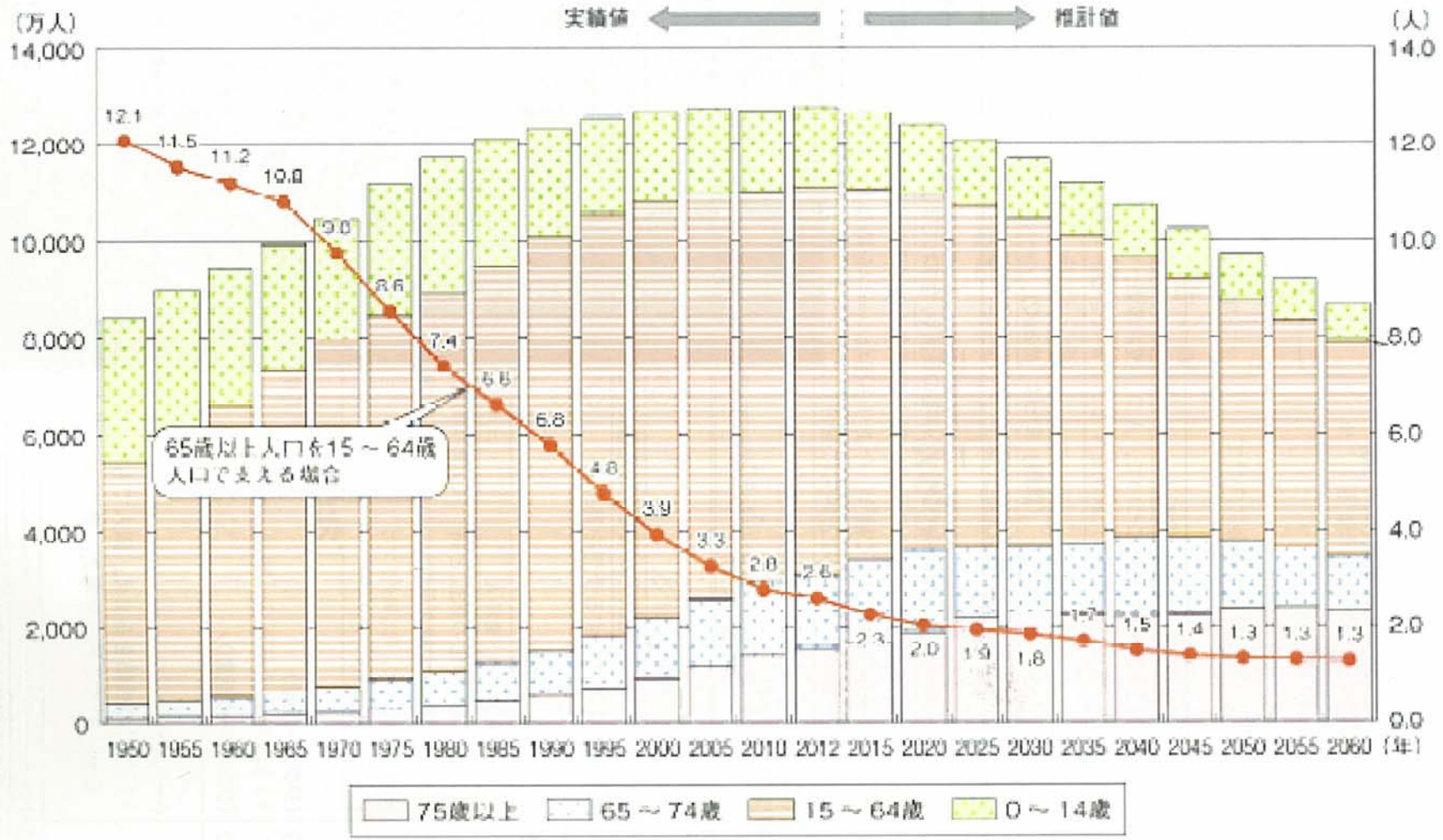
【成果と課題】

○ 授業研究でB,C資料が「高齢化が進むわが国にあっては，高度な自動化に希望を見いだせる側面がある」という視点を導くには弱いことが分かった。そこで，授業後B,C資料を一部修正した。

エキスパート資A(♠)

【メインの資料「高齢化の推移と将来推計」】

図1－1－6　高齢世代人口の比率



資料：2010年までは総務省「国勢調査」、2012年は総務省「人口推計」（平成24年10月1日現在）、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口（平成24年1月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

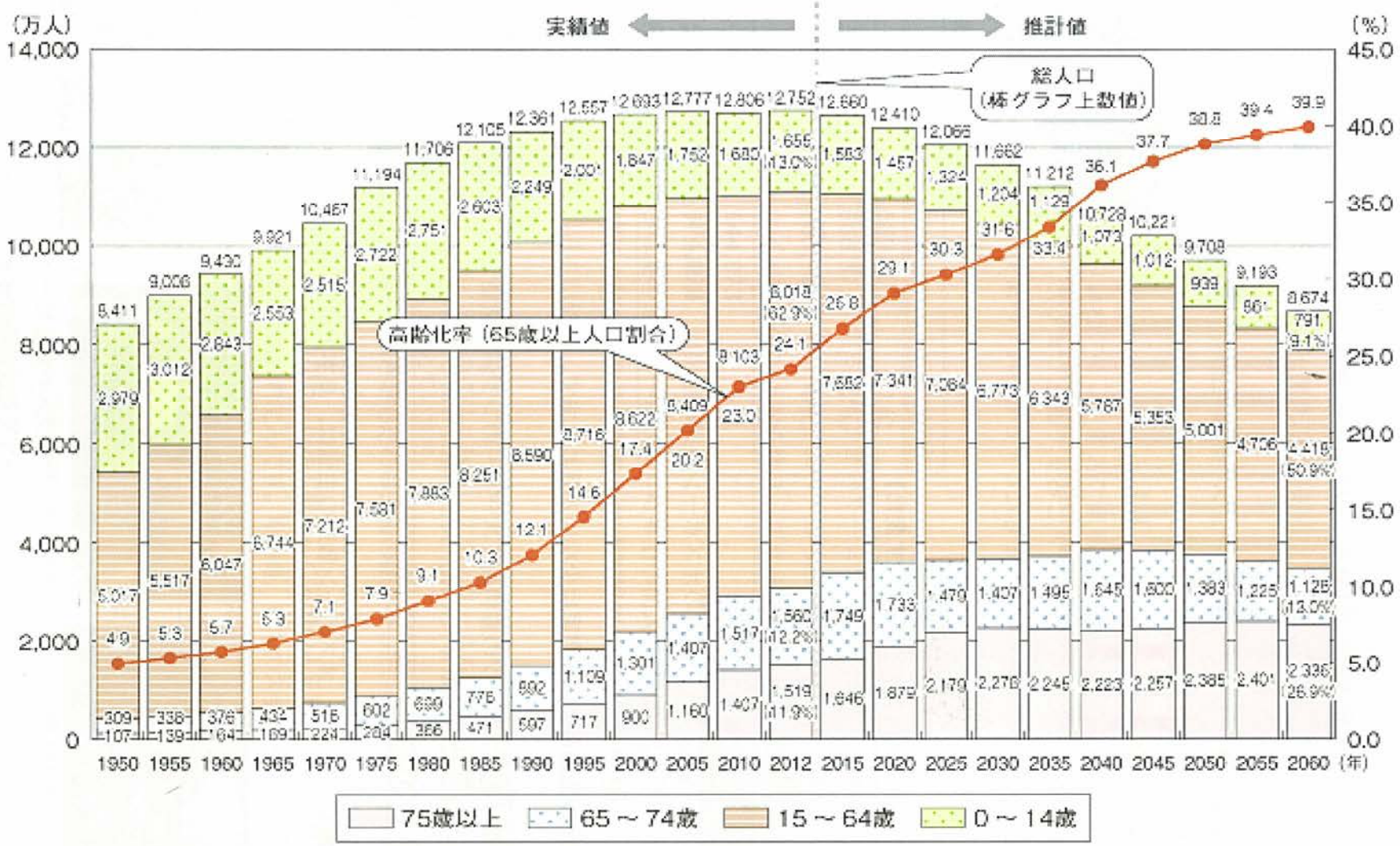
※ エキスパート活動で中心となる資料です。

※この資料から言えることは何でしょうか。

※ 出典
「平成 27 年版高齢社会白書」（内閣府）

【補助資料「高齢世代人口の比率」】

図1－1－4　高齢化の推移と将来推計



資料：2010年までは総務省「国勢調査」、2012年は総務省「人口推計」（平成24年10月1日現在）、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

（注）1950年～2010年の総数は年齢不詳を含む。高齢化率の算出には分母から年齢不詳を除いている。

※メインの資料と棒グラフは同じものです。こちらは単なる補助資料です。
※メインの資料の帯の部分に「数値」が入っています。参考にするなら使います。

※ 出典
「平成 27 年版高齢社会白書」（内閣府）

エキスパート資B(♥)

※ この資料の前提→ 「人工知能(イコール)＝コンピュータ」です

【人工知能 対 人間の頭脳】

人工知能(コンピュータ)の研究が始まったのは1950年代です。最初はチェスを題材に人工知能の開発がすすみ，1997年には世界チャンピオンを下すまでにレベルアップしました。2012年，日本製の人工知能が将棋界(しょうぎかい)の王者，米長(よねなが) 邦雄(くにお) 永世名人(えいせいめいじん)に勝ちました。

最後の砦(とりで)と言われた囲碁(いご)。チェスや将棋に比べて指(さ)し手の選択肢(せんたくし)は数千京通(すうせんけい)りあり，ほぼ無限と言われます。しかしGoogleが開発した人工知能は2015年に世界最強のイ・セドル9段(韓国)に，勝ちました。

今や人工知能は，機械には無理で人間にしかできないといわれたことに取ってわれるところまで進化しました。この技術の進歩は，明るい未来をもたらすと言われています。

対戦するイ・セドル9段

【人工知能の進化が社会にもたらす変化】

「人工知能を搭載したコンピュータの進化がすさまじい勢いですすむ中，これまで人間にしかできないと思われていた仕事が，今後20年間の間に，ロボットなどの機械に置き換えられたり，自動化されていく。」

オックスフォード大学のオズボーン教授の主張は，衝撃を持って世界に受けとめられました。それは，人間の仕事がコンピュータに置き変わる時代の到来を予言したからです。Google の人工知能が囲碁の名人に完勝した事実もあり，オズボーン教授の主張を疑う専門家は少ないと言われます。教授はさらにこう続けます。

「銀行員，スポーツの審判員，スーパーのレジ係，電話オペレーター，さらには弁護士まで，2030年代には，人工知能は今ある人間の仕事の47パーセントに取って代わっているかもしれない。」

驚くべき事に，オズボーン教授の主張は，日本ではすでにいくつか現実のものになっています。

TOYOTAの自動運転自動車

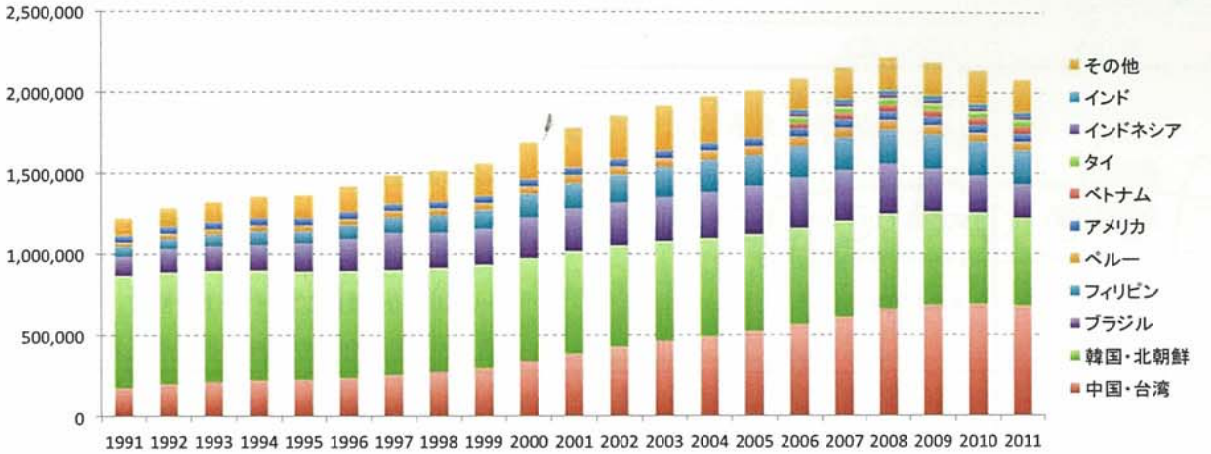
TSUTAYAのセルフ・レジ

日本で開発中の介護ロボット(理研)

※ 参考資料 「現代ビジネス」サイト

エキスパート資C(◆)

【日本で暮らす外国人の数の推移】(1991年～2011年)



【日本のおもな都市の人口】

都市名	人口(2015)単位:人	日本での順位
・横浜市	3,689,603	1位
・大阪市	2,666,371	2位
・名古屋	2,263,907	3位
・札幌市	1,914,434	4位
・神戸市	1,544,873	5位
・京都市	1,474,473	6位
・福岡市	1,463,826	7位

※ 1位は東京特別区(23区)を合計した約900万人ですが，1つの都市ではないので除外しています。

千葉県の老人医療施設で働くインドネシア出身の女性(イスラム教徒)

【日本で働く外国人】

グリコ「ドルチェ」。この夏人気のアイスです。このアイスを開発したのは，タイ出身のグリコ社員，アティターさん。彼女は雑誌のインタビューにこう答えています。

「私が日本で働き始めたのは，母の勧(すす)めでした。今，タイには日本の会社も多くありますし，これからさらに日本とタイの関係は深まるだろうから，日本で働くことは良い人生経験になるのではないか，と言われたんです。私自身，日本の大学に通っていたので，学んだ知識や経験を活かしたいと思って就職活動をはじめ，グリコに入社し，今はアイス部門の開発にたずさわっています。

○ アティターさんのように「外国にルーツ(出身)を持つ」人たちは，日本の社会にとけこんで，仕事やスポーツなどいろいろな場面で日本人とともに活躍しています。特に最近では，スポーツ界でも日本と外国の両方にルーツを持つ人たちがよく報道されますね。アティターさんの所属するグリコや，昨年の夏日本をわかせたラグビー日本代表などは，多様な価値観，文化，能力が集まれば，ダイナミックでエネルギーにあふれた集団になる例の一つでしょう。

【 1年数学科 】授業プラン

・授業日	2016年7月6日(水)3限
・授業者	寶珠山　健介
・学習者	第1学年 1組　16名
・備　考	

【研究の重点】

○ 筋道立った，問題解決的な授業の推進

○ 自分の意見や考えを持てる展開がある授業の推進

単元名	「文字と式」	到達してほしい目安
単元の指導計画	・文字を使った式（1） ・積の表し方（1） ・商の表し方（1） ・式の値（1）（4/7本時） ・いろいろな数量の表し方（2） ・基本の問題（1）	・文字を用いることで，いろいろな数量を，簡潔，明瞭かつ一般的に式に表現できることを理解している。 ・文字式における積の表し方を理解している。 ・文字式における積と商の表し方を理解している。 ・文字式に数を代入して，式の値を求めることができる。 ・いろいろな数量を式に表すことができる。 ・本節のまとめと確かめの問題が解ける

本時の題材	「式の値」(4/7)
本時のねらい	○文字式に数を代入して，式の値を求めることができる。

「学習課題」 または 「めあて」

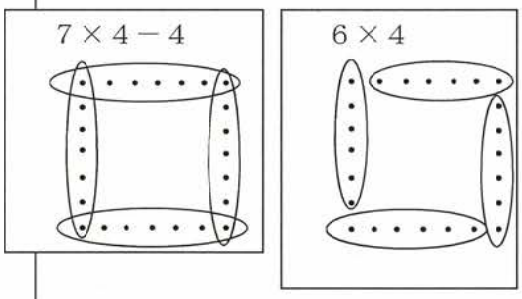
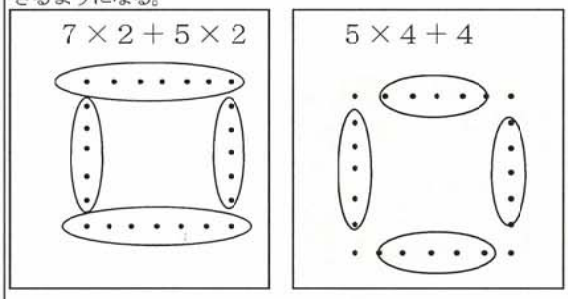
めあて「碁石の総数を文字式で表し答えを求めよう」

「まとめ」や「ふりかえり」で期待する解答の要素や，含まれてほしいストーリー(本時の評価基準)

・文字式を立てることができる。

・文字に数を代入して，式の値を求めることができる。

本時の学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
5分	<導入> ・問題の内容を理解する。 一辺がn個のとき碁石の総数を求めなさい	
10分	<エキスパート活動>  	・各班に分かれて，それぞれの資料に取り組み，その式を説明できるようになる。 
20分	<ジグソー活動>	・ジグソー班に移り，エキスパート活動で得られたことを説明する。その後，問題に取り組む。
10分	<クロストーク活動>	・班ごとに考えを発表させる。
5分	<振り返り> 1辺が（376）個のとき，碁石の総数を文字式を使って求めなさい。	

【成果と課題】

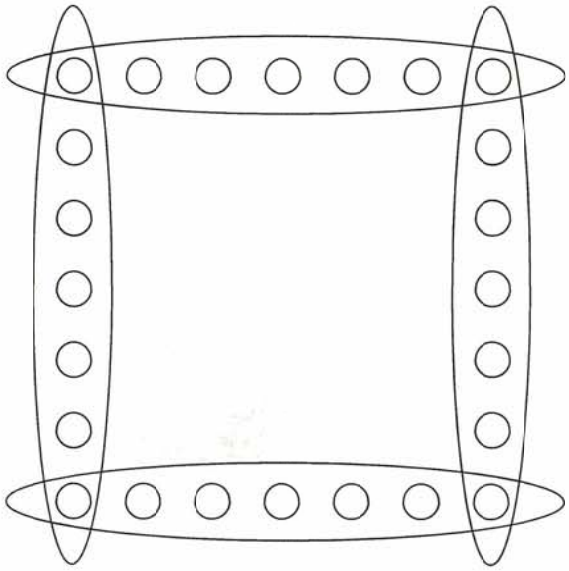
○

(　　)番　名前(　　)

エキスパートA

めあて

1辺が7個のとき，碁石の総数は右図のように考えられる。
計算方法を考えて，説明しましょう。



1辺が10個のとき，碁石の総数をもとめなさい。

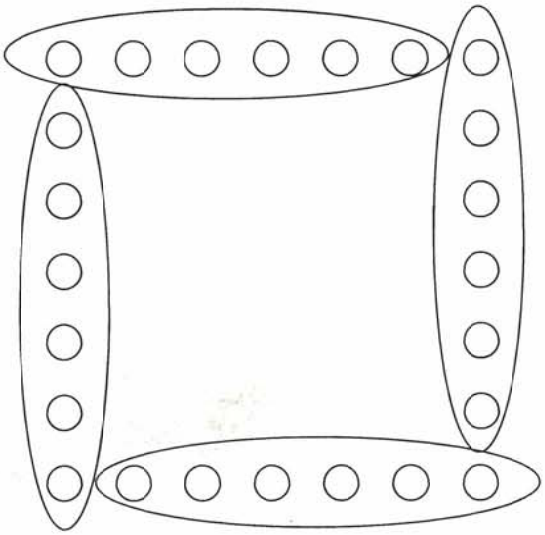
問題
1辺がn個のとき，碁石の総数をもとめなさい。

(　　)番　名前(　　)

エキスパートB

めあて

1辺が7個のとき，碁石の総数は右図のように考えられる。
計算方法を考えて，説明しましょう。



1辺が10個のとき，碁石の総数をもとめなさい。

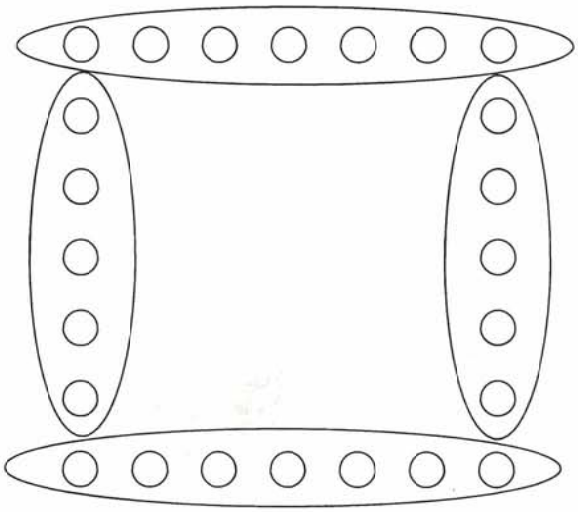
問題
1辺がn個のとき，碁石の総数をもとめなさい。

(　　)番　名前(　　)

エキスパートC

めあて

1辺が7個のとき，碁石の総数は右図のように考えられる。
計算方法を考えて，説明しましょう。



1辺が10個のとき，碁石の総数をもとめなさい。

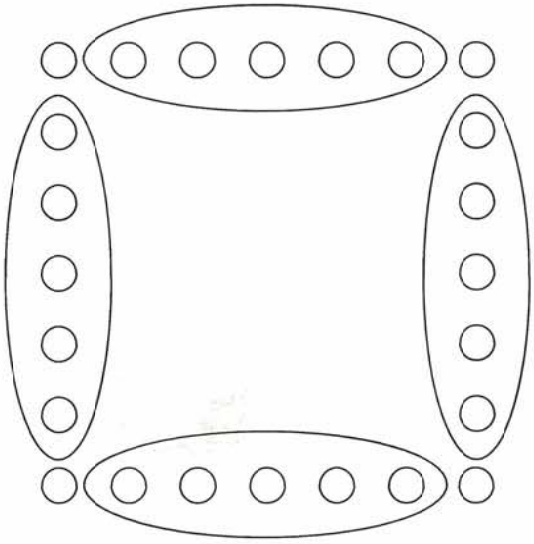
問題
1辺がn個のとき，碁石の総数をもとめなさい。

(　　)番　名前(　　)

エキスパートD

めあて

1辺が7個のとき，碁石の総数は右図のように考えられる。
計算方法を考えて，説明しましょう。



1辺が10個のとき，碁石の総数をもとめなさい。

問題
1辺がn個のとき，碁石の総数をもとめなさい。

(　　)番　名前(　　)

ジグソー

1辺が51個のとき，碁石の総数を文字式を使って求めましょう。

振り返り

1辺が（　　）個のとき，碁石の総数を文字式を使って求めなさい。

感想・わかったこと

【 1 年　理科 】授業プラン

・授業日	2016年11月9日(水)　5限
・授業者	梶原　裕樹
・学習者	第１学年　１７名
・備　考	

【研究の重点】

○ 筋道立った，問題解決的な授業の推進

○ 自分の意見や考えを持てる展開がある授業の推進

単元名	「水溶液」（７時間）	到達してほしい目安
単元の指導計画	1　物質の溶解（１時間） 2　溶解と物質の粒子（１時間） 3　溶解度と再結晶（２時間） 4　水溶液の濃度（１時間） 5　液体の正体を探る（２時間）	①　物質が水に溶けるようすの観察を行い、水溶液の中では溶質が均一に分散していることを見いだす。 ②　水溶液から溶質をとり出す実験を行い、その結果を溶解度と関連付けてとらえる。

本時の題材	「液体の正体を探る」（１／２）
本時のねらい	○無色透明の液体を区別する実験を計画し、実験を行う。その結果を分析し、報告書にまとめる。

「学習課題」　または　「めあて」

課題「　『液体の正体は何だ？』実験を計画して調べてみよう。　」

「まとめ」や「ふりかえり」で期待する解答の要素や，含まれてほしいストーリー(本時の評価基準)

＜科学的な思考・表現＞…物質を性質のちがいに着目して区別することができる。

＜観察・実験の技能＞…物質を区別するため、結果を予想し、実験を計画できる。

…リトマス紙の使い方などの実験の基本操作が身についている。

＜自然事象についての知識・理解＞…物質の性質のちがいについて、基本的な概念を理解し、知識を身につけている。

…薬品や器具の使い方についての知識を身につけている。

本時の学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
5分	1．本時の課題を確認し「知識を整理する」を自分で考える。 『液体の正体は何だ？』実験を計画して調べてみよう。 ○6種類の液体の性質について整理する。 （例）・溶けているもの ・におい ・酸性、中性、アルカリ性のちがい ・石灰水との反応 ・加熱したときの変化　など	○理科ノート ・6種類の液体が入った試験管のどれか1本を、生徒１人ひとりに渡す。 ＜個人で考える＞ ・6酒類の液体の性質をまとめさせる。（机間指導）
１０分	2．班で「実験を計画する」を話し合い、結果の見通しを立てながら、実験方法や順序を考える。 （例）・リトマス紙の変化 ・におい ・電流が流れるかどうか ・加熱したらどうなるか ・金属を入れたらどうなるか ・石灰水を混ぜたらどうなるか　など	○理科ノート ＜班で話し合い、考える＞ ・実験方法や順序とどのような準備が必要か考えさせる。 ・環境や安全面に配慮させる。（机間指導） ×飲む、なめる　など

１５分	３．「実験を行う」で各自の液体を調べる。 （班で協力して行ってもよい。）	○理科ノート ＜個人で実験を行う＞ ・計画通りにできなかったときは、実験計画を修正させる。（机間指導） ・器具の関係で班員と協力して行うことを認める。
５分	４．「結果を分析し、報告する」で各自の液体について行った実験結果を報告書（レポート）にまとめる。 ○依頼者にわかりやすい報告書（レポート）の工夫 （例）・表を用いる。 ・図を書く。 ・結果だけでなく、なぜそう考えたのか理由を書く。 など	○理科ノート ＜個人で報告書作成＞ ・報告書（レポート）の書き方についてアドバイスをする。（机間指導） ・時間内に終わらないので、残りは宿題にする。
１０分	５．班で自分の分析結果を発表する。 ○自分の調べた液体が何であったのか。その理由は何か。 （例）・アルカリ性だったので、アンモニア水だ。 ・石灰水と混ぜると白くにごったので、炭酸水だ。 ・蒸発皿で加熱すると、白い固体が残ったので、食塩水だと思う。 など	○ホワイトボード ＜班員に伝える、聞く＞ ・書くことよりも、言葉や図で伝えることが大切。すべての生徒が発言できるようにアドバイスをする。 （机間指導）
５分	６．全体で各班での意見を交流し、本時のまとめをする。 ○自分が調べた液体以外が何であったか知る。	＜全体に伝える、聞く＞

【成果と課題】

○

【 1年音楽　科 】授業プラン[知識構成型ジグソー法]

授業日	2016年 12月7日(水) 4限
授業者	河野　恵美
学習者	第１学年　17名
備　考	教材作成者　河野　恵美

【直入中2学期 [授業改善]の基本】

・文章・絵・図・諸資料を読み取る活動

・読み取ったことを表現する活動。ICT機器の活用。

・ペアや3人組などで生徒が活動する場面

・生徒の学習意欲を喚起する「課題」「ねらい」

単元名	「魔王」	到達してほしい目安
単元の指導計画	1. 楽曲を聴き、物語を想像させ意見交流する。 2. 声やピアノの音色、登場人物の心情や情景を表した旋律、強弱の変化を感じ取らせる。	・詩の内容と曲想とのかかわりに関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 （関心・意欲・態度） ・声やピアノの音食、登場人物の心情や情景を表した旋律、強弱の変化を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受している。 （鑑賞の能力）

本時の題材	「詩の内容と曲想との関わりを感じ取ろう」(2/2)
本時のねらい (評価基準・評価の観点)	音色、旋律、強弱などの音楽を形づくっている要素（共通事項）から登場人物や伴奏の表現の工夫を感じ取らせ、友だちと考えを共有しながら、音楽の良さや美しさを味わうことができる。

「課題」 または 「めあて」

課 題「　『魔王』の魅力を見つけよう」

「まとめ」や「ふりかえり」で期待する解答の要素や，含まれてほしいストーリー

登場人物や伴奏の表現の工夫に注目することによって、詩と音楽が一体となって、劇的な効果を生み出している様子を理解する。

本時の学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
10分	〈導 入〉 **・校歌を歌う。・前時の復習をする。** ・本時の課題を確認する。	○本時の課題を告げる。
	『魔王』の魅力を見つけよう	
15分	**〈エキスパート活動〉**	○父、子、魔王、伴奏はどのような表現をしているかを、班ごとにipadを使って考えることを伝える。 ○手がかりとして音色、強弱、旋律（共通事項）をもとに考え、ワークシートに記入することを伝える。

エキスパート1 伴奏	エキスパート2 父	エキスパート3 子	エキスパート4 魔王
右の三連符が馬の駆ける様子。左手が嵐の様子を表した旋律。魔王の部分は軽やかな感じ。	終始、子どもをなだめる低い音。 最後は不安な感じ。	おびえた様子がでている。「お父さん」の旋律がだんだん高くなっている。	声の強弱で優しさと怖さを表現している。魔王の旋律は明るい感じで表現されている。

		○ipadの使い方を，必要に応じて支援をする。
15分	**〈ジグソー活動〉**	○トランプの数字の班に移動し、エキスパートでの考えを他の人に伝える。 ○聞いている人はワークシートに記入する。
10分	**〈クロストーク活動〉**	○伝えあいをした上で、『魔王の魅力』は何かを話し合いホワイトボードに書く。 ○発表する。 ※時間があれば女性が歌った『魔王』を鑑賞する。
	〈次時の予告〉	○次時の予告をして，終わる。

【成果と課題】

ipadを使ったエキスパート活動は生徒の興味関心が高まり、言語活動の充実につながった。またホワイトボード、TV、ipadを使った授業は各活動の流れをスムーズにした。協調学習は音楽の授業には取り入れにくいと思っていたが、鑑賞の分野においては有効であることを実感した。エキスパート、ジグソーはうまく流れていったが、クロストークでの話し合いの深まりに欠けたことから、教師側の手立てが必要だったと考える。

◎鑑賞曲　**歌曲『魔王』**　ゲーテ作詩　シューベルト作曲

1年　番　氏名

『魔王』の魅力を見つけよう

楽曲の中で父　子　魔王　ピアノ伴奏はどのような
表現の工夫をしているだろうか

【てがかり】

強弱（強い、弱い、だんだん弱く～）
音色（～のような声・音　～な感じ）
旋律（激しい　細かい　明るい　）

	歌詞の内容	表現の工夫
ピアノ伴奏	（右手、左手 それぞれに注目）	
父	○ぼうやなぜ顔を隠すか ○ぼうやそれは狭霧じゃ ○枯葉のざわめきじゃ ○それは枯れた柳のみきじゃ	
子	○お父さん、そこにみえないの ○お父さんお父さん聞こえないの ○お父さん、そこに魔王の娘が ○ぼうやをつかんでつれていく	
魔王	○かわいいぼうや、おいでよ ○ぼうや、一緒においでよ ○かわいい子じゃのうぼうや、 じたばたしてもさらっていくぞ	

【 1年　保健体育科 】授業プラン

授業日	2017年2月8日 （水） 5限
授業者	西森　訓秀・寶珠山健介
学習者	第1学年　 17名
備　考	教材作成者

【直入中3学期［授業改善］の柱】
・ペアや3人組活動の充実
・生徒の学習意欲を喚起する「課題」「ねらい」
・質の高い学びのための「7つの学習規律」

単元指導計画

<table>
<tr><th></th><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th><th>7</th><th>8</th><th>9</th><th>10</th><th>11</th><th>12</th><th>⑬</th><th>14</th><th>15</th></tr>
<tr><td rowspan="5">10
20
30
40</td><td colspan="8">サーキットトレーニング・準備運動・挨拶・
健康観察・授業のねらいや流れを確認</td><td rowspan="5">ルール学習</td><td colspan="7">サーキットトレーニング・挨拶・
健康観察・授業のねらいや流れを確認</td></tr>
<tr><td rowspan="3">試しのゲーム</td><td colspan="7">ボールハンドリング</td><td colspan="5">シュート</td></tr>
<tr><td rowspan="2">パス</td><td rowspan="2" colspan="2">四角パス</td><td colspan="4">四角パス</td><td rowspan="3" colspan="2">連続
3対2</td><td rowspan="3">連続
3対3
ゲーム</td></tr>
<tr><td colspan="4">シュート
（ドリブル・ランニング・ジャンプ）</td><td>班分け</td><td colspan="3">四角パス</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td colspan="3">3対2</td></tr>
<tr><td colspan="8">まとめ・挨拶・片付け</td><td colspan="7">まとめ・挨拶・片付け</td></tr>
</table>

本時の題材	3対2
本時のねらい （評価基準・評価の観点）	・オフェンスにおいて、ノーマークを見つけることができ、自身もノーマークになることを意識することができる。 ・ディフェンスにおいて、2人で協力して守ることができる。

「課題」 または 「めあて」

めあて ：「3対2における、上手なオフェンス・ディフェンスの方法を考えよう」

「まとめ」や「ふりかえり」で期待する解答の要素や、含まれてほしいストーリー

〈オフェンス〉

（前時）・三角形を基本に攻め、スペースをつくる。　・速いパスを回して、ディフェンスをかく乱する。

・（自分にボールがきたとき）ノーマークを見つける。
・（自分にボールがきたとき）自分がノーマークであれば、シュートする。
・シュートできるスペースに移動する。
・簡単にカットされないパス（種類・速さ）を用いる。

〈ディフェンス〉

（前時）・チャレンジ＆カバー
・ボールに近い者が、ボールの進行を防ぐ。⇨ ・Aがボールの進行を防ぎ、Bがゴールを守り、パスカットをねらう。

・オフェンスよりも内側で守る。（三角形の外に飛び出さない・後ろからではなくOFの前に行く）
・Aは、ボールとリングを結ぶ直線（最短コース上）に位置する。
・Aの動き（シュートブロック・パスブロック→ 『千手観音』）
・Bは、残り2人の間に位置し、ノーマークをつくらない。

本時の学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
7分	サーキット　ランニング8周 ①バービー　②腕立て伏せ ③Vシット　④バービージャンプ ⑤背筋　⑥脚上げジャンプ （各5回）	○正確な動きになるよう、声かけを行う。
〈導入〉		
3分	○挨拶　・健康観察 ○本時の流れを理解する。	○出欠確認・健康観察を行う。 ○本時の流れを説明する
10分	○ハンドリングをする。 ○シュート練習をする。（4班） ・ドリブルシュート　・いろいろなシュート 2．5分　2．5分 ○四角パスをする（オールコート）	○「身体に触れない」等の声かけを行う。 ○45°の入角・片足ジャンプ・最高点で「リングの上に直接ボールを置く」くらいの優しさ　等に留意させる。 ○正確なパス、シグナル（声・手）を出す、ﾄﾗﾍﾞﾘﾝｸﾞ、ｲﾘｰｶﾞﾙﾄﾞﾘﾌﾞﾙに留意させる。
〈展開〉		
17分	○前時の確認をする。 ○本時のめあてを確認する。	○前時に出た考えを確認する。 ○本時のめあてを告げる。
	「3対2における、上手なオフェンス・ディフェンスの方法を考えよう」 **ヒント：「ノーマーク」**	
	○3対2を班ごとに行う。（3班×6人） ※　C班　～オールコート A・B班～ハーフコート （ローテーションを行う）	○5人班にT2（實珠山）が入る。 ○ホワイトボードを使って、5人の動きを確認させる。 ※気付いたことがあれば、メモさせる。 ○班を巡視しながら、適宜アドバイスする。 ※解答の要素のヒントを与える。 ※場面によっては、プレイを中断させて説明する。
5分	○班ごとに考えをまとめる。	○班ごとにまとめさせる。
〈ふりかえり〉		
5分	○班ごとに発表する。	○それぞれの班の考えを板書する。
3分	○本時のまとめ・次時の予告を聞く。 ○整理運動をする。 ○片付けをする。	○本時のまとめをし、次時の予告をする。 ○簡単な整理運動をさせ、片付けさせる。

【成果と課題】

［成果］

○運動量が豊富で、活動的な授業だった。　○リズム感のある授業だった。

○「7つの学習規律」ができていた。

○普段では見られない生き生きとした表情がみられた生徒もいた。

○話し合い・班活動について

・ホワイトボードを利用することで、個人の理解度や思考が把握しやすくなった。
（理解はしていても、思ったように動けない生徒もいる）

・言葉では表現しづらいことも、マグネットを動かすことで表現しやすかった。

・グループ内で、普段発言の少ない生徒も発言できていた。

［課題］

・〈ふりかえり〉が長すぎ、時間超過してしまった。

・めあての設定～もっと具体的にした方がよい。
「上手な……考えよう」→「決めやすい位置からノーマークでシュートしよう」等

・生徒の思考が、DFよりもOFに偏っていたのではないだろうか？

・OF、DFごとに考えさせては？

【 2年 社会科 】授業プラン[知識構成型ジグソー法]

竹田市立直入中学校

授業日	2017年7月13日(木)5限
授業者	三 浦 祐 一
学習者	第2学年 17名
備 考	教材作成者:三 浦 祐 一

【直入中1学期 [授業改善]の重点】
・意見や考えを出し合う学習活動の工夫
・生徒の学習意欲を喚起する「課題」「ねらい」の工夫

本時の学習活動のデザイン

単元名	「世界から見た日本の自然環境」	到達してほしい目安(評価規準Bの姿)	観点
単元の指導計画	1. 世界の地形	・地震の震源と火山帯が重なることを説明できる。	思
	2. 日本の山地と海岸	・山脈分布など日本の地形の特色を理解している。	知
	3. 日本の川と平地	・教科書の図を使って地形と土地利用の関係について説明できる。	技
	4. 世界から見た日本の気候	・五つの気候帯の特色について，雨温図をもとに話し合っている。	関
	5. 自然災害と防災への取り組みⅠ(本時)	・水害の被害が大きい理由を自分のことばで説明することができる。	思
	6. 自然災害と防災への取り組みⅡ	・竹田市の防災の取組について理解している。	知

本時の題材	「自然災害と防災の取り組み ～竹田水害～ 」(1/2)
本時のねらい ↓↑ (評価規準・評価の観点)	○ 竹田水害で中心部の被害が大きかった理由を考える事を通して，大きな災害は地形や町並み・自然条件等が重なり合って起きることを，自分のことばで説明することができる。

「課題」 または 「めあて」

「竹田水害では，どうして市内中心部(竹田・玉来・松本地区)に大きな被害がでたのだろうか」

「まとめ」や「ふりかえり」で期待する解答の要素や，含まれてほしいストーリー

①「市内中心部は盆地の底に位置し，」
②「市内を河が蛇行しながら流れていて，その川に沿って町がある。」
③「そのような地形のところに，短時間で，川のキャパシティを越える降雨があった。」
ため，川があふれ出し中心部に大きな被害が出た。

時 間	学習活動[生徒指導の3機能の場面]	指導・支援 等
10分	〈導 入〉 ・本時の課題を確認する。	○本時の課題を告げる。
	「竹田水害では，どうして市内中心部(竹田・玉来・松本地区)に大きな被害がでたのだろうか」	
	・個人で課題に対する予想を書く。 (自己決定)	○ワークシートに自分の最初の答えを書かせる。
15分	〈エキスパート活動〉 (自己存在感)	○「分かったこと」と，「分からなかったこと」を伝えられるよう，準備させる。
	エキスパート資料(活動)Aの要素 ○盆地の地形の特色を考えるための模式図と説明文。	エキスパート資料(活動)Bの要素 ○ 竹田市中心部の地形図。中心部を流れる川などについての説明文。
	エキスパート資料(活動)Cの要素 ○ 2012年九州北部豪雨で短時間で大量の降雨があったことが分かる資料。	
15分	〈ジグソー活動〉	○机間巡視をしながら，必要に応じて支援をする。 ○班の答えをホワイトボードに書く。
10分	〈クロストーク活動〉 (共感的人間関係)	○代表者に発表させる。 ・生徒の話し合いの成果を尊重し，そのまま発表させる。 ○今年の「九州北部豪雨(仮称)」で大きな被害出た理由を問う。
	〈終末〉 ・授業での活動をふまえ，個人でもう一課題に対する答えを考え，書く (自己決定)	○ワークシートにもう一度自分の考えを書かせる。 ○次時の予告をして，終わる。

エキスパート資料A

【日本に多い地形】

（資料出典:国土地理院 HP より）

○上の資料は，日本でよく見られる地形を描いたものです。日本は国土の 7 割が山地ですから，この**資料A**のような地形が多く見られます。さて何という地形でしょうか。次の①～③の中から，一つ選んで下さい。

① **河岸段丘**（かがんだんきゅう）	② **盆地**（ぼんち）	③ **扇状地**（せんじょうち）

（1 年の 3 学期に勉強しましたが，見分けられますか？あなたの考えでいいですよ。）

○**地図帳P139「①日本の地形の特色 -模式図（もしきず）- 」**を使って，みんなで答合わせをして下さい。

答え（**番号**　　）

○答え合わせが終わったら，この地形で気がつくことはありませんか？みんなで出し合って，課題を解く上で関係があると思われる意見を，ジグソー班に伝えて下さい。

〔気がついたこと〕

○最後に，この地形は竹田市中心部と 「**同じ**」 ですか，「**違う**」 のですか？
地図帳P84（ H⑤(縦H, 横⑤) ）で調べて，ジグソー班に伝えて下さいね。

2年社会科「自然災害と防災への取り組み ～竹田水害 ～」

エキスパート資料B

【竹田市中心部の被害状況】

（資料出典:国土地理院 HP より作成）

[←川の上流]　　[川の下流→]

先ず自分の「防災マップ」の竹田文化会館にラインを引きましょう。

○資料Bの ▶ は，2012 年の九州北部豪雨の時に，竹田市中心部を流れる川があふれ出した地点を示しています。市内を流れる 2 本の川のうち，「南側の川のカーブ地点の前か後ろで川の水があふれ出している」ことが分かります。

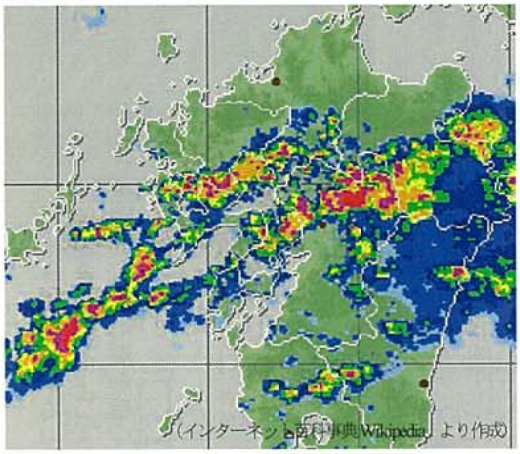
○市内の広いエリアがあふれ出した水と土砂でおおわれました。右上は文化会館近くの写真です。文化会館や付近の住宅地は，大変な被害を受けました。

○なぜ川の水があふれ出したことで被害が大きくなったのか。それは竹田市中心部を流れる川の特徴と，竹田市中心部の町並(町の立地)に関係があります。

○被害が大きくなった理由の一部として，「① **川の流れ方が蛇行している**」ことと「② **人口の多い地区が川の北と南の二つの川に挟まれている**」からだと言えます。「防災マップ」も使いながら，ジグソー班で説明して下さい。

（でもこれだけが理由なら，雨のたびに毎回水害がおきているはずですよね…。）

【九州北部豪雨の特徴】



○写真は 2012 年九州北部豪雨の竹田市内中心部のものです。玉来(たまらい)地区の文化会館の近くにはみなさんも行ったことがあると思います。衝撃的な写真です。

○どうしてこのような被害になってしまったのでしょうか。**資料C**では，九州北部豪雨の特徴に注目します。

○ 2012 年九州北部豪雨。7 月 11 日から 14 日にかけて，九州北部に梅雨時(つゆどき)の雨雲がとどまり，そこに季節風に乗って，南からのしめったぼう大な水分を含む温かい空気が大量に流れ込みました。上の雨雲レーダーは，そのときのものです。竹田市にあつく雨雲がかかっているのが分かります。その結果，3 日間特に 13 日に九州北部に記録的な雨をふらせたのです。記録的とはどのくらいなのか。資料にまとめます。

項 目	記録・被害状況など
○被災地域	大分県・熊本県・福岡県
○最多総雨量	816 ㎜(81.6cm)
○1時間あたり最多雨量	108 ㎜(10.8cm)
○全・半壊した建物	1,863 棟
○床上まで水が来た建物	3,298 棟
○死 者	30 人
○負傷者	27 人

○竹田市の被害は，おもに川の水があふれたことによる「水害」によるものでした。資料によると，1 時間に 1 ㎝を超える量の雨が降っていることが分かります。

○「短時間に記録的な量の雨が降り，川があふれだしたこと」。これが大きな災害=竹田水害につながったのです。

（しかし，同じ雨量なのに，久住や直入では一部の土砂災害ですんでいます。何が違うのでしょうか。）

研究同人

平成28年度		平成29年度	
校長	河村　明彦	校長	伊東　祐一
教頭	片桐　睦雄	教頭	片桐　睦雄
3年部	三浦　祐一	3年部	西森　訓秀
	堀　剛士		梶原　裕樹
	上野　良恵		上野　良恵
2年部	西森　訓秀	2年部	堀　剛士
	梶原　裕樹		赤木　美千香
1年部	河野　恵美		寳珠山　健介
	白石　麻利江	1年部	三浦　祐一
	神志那　郁		河野　恵美
	寳珠山　健介		